湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　薬学部
名　前　寺島　朝子
作成日　2026 年 5 月 18 日

1. 教育の責任

私は、臨床系教員として、2022 年 4 月から科目を担当し、現在までに医療薬学チュートリアル演習Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ、実務実習事前学習Ⅱの科目責任者として複数教員と協働しながら構築した。また、調剤学では科目責任者（加賀谷教授）を支援しながら 9/15 コマを担当し、他学部合同科目であるチーム医療論ではワーキングメンバー（3年目）として授業構築に携わっている。さらに、薬学総合プレ研究、卒業研究においては、学生の研究指導も行っている。

〔薬学部 担当科目〕

医療薬学チュートリアル演習Ⅰ（2 年前期、必修、1 単位）
薬学総合プレ研究（3 年通年、必修、2 単位）
調剤学（3 年後期、必修、1 単位）
実務実習事前学習Ⅰ（3 年後期、必修、1 単位）
処方解析演習（4 年前期、必修、1 単位）
実務実習事前学習Ⅱ（4 年前期、必修、2 単位）
実務実習事前学習Ⅲ（4 年後期、必修、2 単位）
病院実務実習（5 年通年、必修、10 単位）
卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）（4 年後期～5 年通年、必修、12 単位）
卒業研究Ⅱ（課題解決型薬学研究・発展）（6 年前期、必修、4 単位）
チーム医療論（6 年後期、必修、0.9 単位）
総合演習Ⅱ（6 年後期、必修、20 単位）

〔保健医療学部 看護学科 担当科目〕

病態学Ⅴ（母子） 1 コマを分担

〔専攻科 助産学専攻 担当科目〕

基礎助産学 1 コマを分担

このほか、薬学部の CBT・国家試験対策では S-タスクとして学生の学修支援を行っている。委員会活動は、研修委員会、チューター委員会、共用試験（OSCE）委員会、実務実習委員会の委員を担当している。特に、OSCE に関しては OSCE 委員として OSCE に関する試験実施体制の整備と運営と実務実習事前学習との連携を担っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は、薬剤師の社会的使命に基づいて教育を実践している。薬剤師法第 1 条には、「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と定められている。私は、この理念を薬学教育の根幹に据え、学生が将来、国民の健

康と生活を支える専門職として成長できるよう支援したいと考えている。

薬学教育において、知識はサイエンスであり、技能や態度はアートである。優れた薬剤師になるためには、単に知識を蓄積するだけではなく、それらを有機的に関連付け、患者や社会の状況に応じて活用する力が求められる。私は授業の中で、「なぜその知識が必要なのか」「実際の医療現場でどのように活用されるのか」を常に問いかけ、学生が主体的に考える姿勢を育てることを重視している。

近年、学生には知識の暗記に偏る傾向がみられる。しかし、医療現場では単なる記憶ではなく、根拠をもとに判断し、経験を通じて学び続ける力が必要である。そのため私は、学生が「なぜそうなるのか」を深く考え、自ら課題を発見し解決する姿勢を養えるよう指導している。また、薬剤師という職業は単なる生業ではなく、高い使命感と責任感を伴う専門職である。6 年間の薬学教育は長いようで短く、学生は在学中に大きく成長する。私は、入学時から学生に「将来、医療に携わる者」であるという自覚を持たせ、専門知識だけでなく、人間性や倫理観も備えた薬剤師を育成したいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私の教育理念は、これまでの多様な臨床経験と教育経験を通して形成されたものである。私は国立大学病院に勤務し、薬剤師（技官）および薬剤部管理職（副部長）として、医療チームの一員として高度医療に携わってきた。また、地域病院の薬剤師として地域医療を経験するとともに、保険調剤薬局では患者や生活者に最も近い立場で薬学的支援を行ってきた。さらに、その間に薬学部 2 施設および医学部 1 施設において学生教育に携わり、教育者としての視点を深める機会にも恵まれた。

これらの経験を通して強く感じたのは、日本の薬学教育において、臨床と教育が必ずしも十分に結び付いていないという課題である。学生にとって、大学で学ぶ知識と実際の医療現場が別個のものとして認識されてしまうことは少なくない。しかし本来、薬学教育は臨床実践と密接に連携し、現場で求められる判断力や責任感を育むものであるべきだと考えている。私は、臨床経験豊富な教員が実践に基づいた教育を行い、専門職としての姿勢や倫理観を学生に示していくことが重要であると考えている。

どのような薬剤師業務であっても、その先には常に患者の生活や命が存在する。薬剤師は、薬物療法を通じて人々の健康と安全を支える専門職であり、その社会的責任を自覚することが不可欠である。しかし、私自身、学生時代にはその責任の重みを十分に理解できていたとは言えない。大学 3 年生頃までは、臨床現場に立つことを具体的に実感できず、卒業を目前にして初めて、「もっと臨床を意識し、責任ある学びを積み重ねるべきだった」と痛感した経験がある。この学生時代の後悔は、現在の私の教育観に大きな影響を与えている。だからこそ私は、臨床経験を持つ薬剤師

として、学生に学びの意義を伝えたいと考えている。単に国家試験合格を目指すだけではなく、医療人としての使命感と責任感を持ち、社会に貢献できる薬剤師を育成することが、私の教育者としての目標である。

3. 教育の方法・戦略

講義や演習では、できるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生に自ら思考させる仕組みを作っている。現在行っている医療薬学チュートリアル演習Ⅰでは、以下の6つの時間を循環させるように授業を構築している:

①学生に思考させる時間
②自らの思考を文字で表現する時間
③自らの思考を言葉で他者に伝える(アウトプットする)時間
④自らの思考に対して他者からの意見をもらう時間
⑤他者の思考に対して自らの考えを述べる時間
⑥他者の意見を踏まえて自らの考えを再構築する時間

このプロセスは、学生にとって頭と感情を使う非常に苦しいものであるが、その重要性を理解してもらうために、時間の許す限り「なぜ」「どうして」「他には？」といった質問を投げかけ、自らの思考に向き合わせるようにしている。3年生の調剤学や実務実習事前学習でも、学生が思考を深めながら学ぶ仕組みを考え、導入している。

アクティブラーニングを効果的に実施するためのスキルは、有識者の講演や学外のワークショップ、また他大学の教員とのディスカッションを通じて磨いている。時代の流れを踏まえ、学生にとって身近な問題から臨床的な問題までを思考できるように、テーマに工夫を凝らしている。ただし、教育方針については学内の様々な教員と意見を合わせる必要がある。本学には多様な教員が集まっており、大学における FD(ファカルティ・ディベロップメント)などの機会を活用し、年齢や立場に関係なく意見交換を行い、授業の改善に努めていきたいと考えている。

4. 学習成果

- 学生による授業評価アンケートでは、担当科目全体を通して、学習意欲、授業内容、教員の熱意について概ね高い評価を得た。
- 「調剤学」「実務実習事前学習Ⅰ」「実務実習事前学習Ⅱ」では、授業内容の理解度や到達目標の達成度について良好な結果が得られた。
- 「医療薬学チュートリアル演習Ⅰ」では、コミュニケーション能力や協働性の向上に関する学生の意見がみられ、主体的学習の成果が認められた。
- 「調剤学」では2025年度に追・再試験対象者および単位未修得者がみられたが、出席状況や継続的学習への取り組みが課題であった学生が多く、主体的学修の重要性を改め

て指導する必要性を感じている。

・　授業資料やスライドについては、「見やすい」「分かりやすい」との評価が多く、教材作成上の工夫は一定の効果を上げていると考えている。

5.　改善のための努力

授業評価アンケートでは概ね良好な評価が得られた一方で、説明方法や実習時間、教員間での指導内容の違いに関する意見もみられた。これらの意見から、学生に一貫性のある教育を提供するためには、教員間で教育方針や到達目標をより十分に共有する必要があると感じている。

また、近年は学生の多様化が進み、知識理解だけでなく、学習意欲や精神面への配慮を含めた支援が求められている。特に「調剤学」では、2025 年度に追・再試験対象者および単位未修得者がみられ、継続的な学習習慣や主体的学修の重要性を改めて認識した。今後は、早期から学生の学習状況を把握し、継続的な学習への意識づけを行うことで、より効果的な学修支援につなげていきたい。

さらに、授業資料やスライドについても継続的に改善を行い、学生がより理解しやすい教材作成と学修環境の整備に努めていきたい。

6.　今後の目標

短期的な目標として、次年度の開講に向けて、今年度中に講義資料と運用方法のブラッシュアップを図る。これにより、より効果的な授業が提供できるようにする。長期的な目標としては、調剤学や実務実習事前学習など高学年の授業に繋がるように、引き続き学生の思考を引き出す授業づくりを進める。また、実務実習事前学習Ⅰ～Ⅲの後に薬学共用試験 OSCE が控えているため、学生が知識だけでなく技能や態度を身に付けられる実習の構築も目指す。また、研究指導では、自身の研究テーマ（添付資料⑨～⑪）を通して、取り組みを伝えてゆく所存である。これらの取り組みを通じて、今後も学生にとってより充実した学びの場を提供できるよう努めていきたいと考えている。

【添付資料】

①（シラバス）119_医療薬学チュートリアル演習Ⅰ_2025 年度 2 年前期
②（シラバス）120_調剤学_2025 年度 3 年後期
③（シラバス）121_実務実習事前学習Ⅰ_2025 年度3年後期
④（シラバス）124_実務実習事前学習Ⅱ2025 年度 4 年前期
⑤（授業評価アンケート）2025 年度薬学部授業評価アンケート_医療薬学チュートリアル演習
⑥（授業評価アンケート）2025 年度薬学部授業評価アンケート_調剤学
⑦（授業評価アンケート）2025 年度薬学部授業評価アンケート_実務実習事前学習Ⅰ

⑧（授業評価アンケート）2025 年度薬学部授業評価アンケート_実務実習事前学習Ⅱ
⑨（研究活動）FIP 2025, Aug.2025
⑩（研究活動）第 10 回 日本薬学教育学会（東京）要旨
⑪（研究活動）日本薬学会第 146 年会（大阪）一般学術発表要旨

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数（時間数）	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
医療薬学チュートリアル演習Ⅰ Tutorial for Pharmaceutical Care Ⅰ	必修	演習	1単位 （30時間）	2年前期	寺島 朝子、佐野 和美、石橋 芳雄、鈴木 勉、定本清美、加賀谷 肇、加藤 裕久、古屋 博行、湯本哲郎、加藤 紘一、市丸 嘉、山崎 泰広、須藤 遥、殿山 泰弘、塩田 清二、若山 恵、小田中啓太	○

ナンバリングコード	YCP02	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及び、別途公開のオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。

授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針、他の授業科目と当該授業科目の関連
専門科目	DP1）社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2）専門的な知識・技術を発揮することができる。 DP3）地域の健康についての知識・教養を身につけている。 DP4）主体的に考え、他者と協調して行動し、発信することができる。 関連する授業科目 早期臨床体験実習、医療薬学チュートリアル演習Ⅱ、調剤学、実務実習事前学習Ⅰ
臨床薬学	

授業概要	社会が抱える事案を題材に、主にスモールグループディスカッション（SGD）の形式で、問題解決学習（PBL）を行う。日本が抱える多様な社会問題に目を向けて共有した後に、1つの社会問題に焦点を当て、グループごとに課題、課題解決の目的の明確化、目標設定、情報収集（調べもの）、課題解決の提案・具体化、プレゼンテーション（発表会）のプロセスを経て、最終的な解決策の提案（プロダクト）の作成を行う。また、同様のプロセスを経ながら、日本における少子高齢化社会に求められる医療・介護・福祉の形に目を向けたうえで、地域における医薬品の適正使用に関する課題抽出から課題解決策の作成までを行う。
授業のねらい	目の前にある課題に向き合い、課題解決を目指して成果や効果につながる行動や表現ができるようになるためのプロセスを修得する。
学修目標	1）現代社会が抱える課題について意見を述べる。 2）地域の保健・福祉の観点から、患者・生活者を取り巻く社会問題について説明する。 3）社会問題の解決のために、取り組むべき課題を抽出する。 4）社会問題の解決のために、薬剤師と薬学が果たす役割を提案する。 5）課題解決のための具体策を、他者にわかりやすく表現する。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学修 （予習・復習・課題等）	学修方法（場所）	評価方法	項目	担当教員
1	グループディスカッションの基本	SGDの目的や方法、メンバーの役割を考える。 事前学修（20分）受動的学習と能動的学習の違いについて考える。 事後学修（10分）配布資料等を参考に第1回のポイントを振り返る。	演習（実習室）	観察記録* レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	寺島 朝子、佐野 和美、石橋 芳雄、鈴木 勉、定本清美、加賀谷 肇、加藤 裕久、古屋 博行、湯本哲郎、加藤 紘一、市丸 嘉、山崎 泰広、須藤 遥、殿山 泰弘、塩田 清二、若山 恵、小田中啓太
2	日本の社会問題を知る	日本が抱える多様な社会問題を列挙する。 事前学修（20分）いま解決しないと近い将来、より多くの代償を支払うことになるだろう日本の問題について調べる。 事後学修（10分）第2回で共有した情報を振り返り、整理する。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
3	課題を抽出、解決の目的の明確化、目標（ゴール）設定	1つの社会問題に焦点を当て、課題を抽出、解決の目的の明確化、目標（ゴール）設定を行う。目標到達の戦略を立てる。 事前学修（20分）問題解決のための思考の整理術について考える。 事後学修（10分）課題解決（目標到達）のために必要な情報を考える。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
4	情報収集および解決策の提案	課題について情報を収集、整理する。課題解決のためにアイディアを出し切る。 事前学修（20分）課題解決（目標到達）のために必要な情報の整理術について考える。 事後学修（10分）第4回で共有したアイディアを振り返り、整理する。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
5	解決策の具体化 プレゼンテーション準備	具体性ある策に絞り込む。実行可能で有効な解決策を決める。プレゼンテーションにおいてわかりやすく表現するアイテムを準備する。 事前学修（20分）自分が伝えたいことと、聞き手の立場で聞きたいことの違いについて考える。 事後学修（10分）プレゼンテーションの目的に沿った、効果的な伝え方を考える。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
6	プレゼンテーション	班の提案をプレゼンテーションする。他者のプレゼンテーションから改善点を学ぶ。 事前学修（20分）プレゼンテーションの質疑応答に備える。 事後学修（10分）質疑応答などから得た学びや改善点を整理する。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
7	課題解決策を伝える最終プロダクトの作成	質疑応答等から得られた気づきを基に、改善点等を踏まえて再構築し、プロダクトを作成する。 事前学修（20分）改善点を踏まえた再構築の案を考える。 事後学修（10分）第2回～第7回までのプロセスを復習する。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
8	少子高齢化社会の問題を知る	日本がおかれている少子高齢化社会における問題を様々な角度から列挙する。 事前学修（20分）日本の少子高齢化社会の背景について調べる。 事後学修（10分）第8回で共有した情報を振り返り、整理する。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	
9	少子高齢化社会に求められる医療・介護・福祉の形	高齢者が抱える不安の現状を知り、その対策として求められる地域の医療・介護・福祉の形をイメージする。高齢者の生活や健康を支える職種を知る。 事前学修（20分）横浜市のHP等を活用して、地域の医療・介護・福祉サービスの現状を調べる。 事後学修（10分）第9回で共有した情報を振り返り、整理する。	演習（実習室）	観察記録 レポート	A-8） A-10） B-1 B-2 B-3 F-2-1	

10	将来の薬剤師と薬学が果たす役割	少子高齢化社会に求められる薬剤師像を考える。地域における医療機関と薬局の連携の重要性を考える。 事前学修(20分)薬剤師の職能とさまざまな職務について調べる。 事後学修(10分)地域包括ケアシステムにおいて薬剤師に求められる役割を復習する。	演習 (実習室)	観察記録 レポート	A-8) A-10) B-1 B-2 B-3 F-2-1	寺島 朝子、佐野 和美、石橋 芳雄、鈴木 勉、定本清美、加賀谷 肇、加藤 裕久、古屋 博行、湯本哲郎、加藤 紘一、市丸 嘉、山崎 泰広、須藤 遥、殿山 泰弘、塩田 清二、若山 恵、小田中啓太
11	課題を抽出、解決の目的の明確化、目標(ゴール)設定	薬が正しく安全に使われるために、医薬品の適正使用に焦点を当て、課題を抽出、解決の目的の明確化、目標(ゴール)設定を行う。目標到達の戦略を立てる。 事前学修(20分)薬を正しく安全に使うとはどういうことか考えておくとともに、薬が正しく安全に使われない場合に発生する問題についても考える。 事後学修(10分)第11回で共有した情報を振り返り、整理する。	演習 (実習室)	観察記録 レポート	A-8) A-10) B-1 B-2 B-3 F-2-1	
12	情報収集および解決策の提案	課題について情報を収集、整理する。課題解決のためにアイディアを出し切る。 事前学修(20分)収集すべき情報と収集方法を考える。 事後学修(10分)第12回で共有した情報を振り返り、整理する。	演習 (実習室)	観察記録 レポート	A-8) A-10) B-1 B-2 B-3 F-2-1	
13	解決策の具体化 プレゼンテーション準備	具体性ある策に絞り込む。実行可能で有効な解決策を決める。プレゼンテーションにおいてわかりやすく表現するアイテムを準備する。 事前学修(20分)自分が伝えたいことと、聞き手の立場で聞きたいことの違いについて考える。 事後学修(10分)プレゼンテーションの目的に沿った、効果的な伝え方を考える。	演習 (実習室)	観察記録 レポート	A-8) A-10) B-1 B-2 B-3 F-2-1	
14	プレゼンテーション	班の提案をプレゼンテーションする。他者のプレゼンテーションから改善点を学ぶ。 事前学修(20分)プレゼンテーションの質疑応答に備える。 事後学修(10分)質疑応答などから得た学びや改善点を整理する。	演習 (実習室)	観察記録 レポート	A-8) A-10) B-1 B-2 B-3 F-2-1	
15	課題解決策を伝える最終プロダクトの作成	質疑応答等から得られた気づきを基に、改善点等を踏まえて再構築し、プロダクトを作成する。 事前学修(20分)改善点を踏まえた再構築の案を考える。 事後学修(30分)第1回～第15回を振り返り、学修成果や成長を記録する。	演習 (実習室)	観察記録 レポート	A-8) A-10) B-1 B-2 B-3 F-2-1	

評価	*SGDへの参加や発言・発表(40%)、プレゼンテーション用の資料作成と発表(30%)、レポート・提出物(20%)、ポートフォリオ(10%)で評価する。演習中に用いるワークシートは、レポート・提出物として評価の対象とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題発表に対して適宜質問および補足説明を行う。
教科書	事前に資料を共有し、この資料に沿って進行するため教科書は使用しない。
参考図書など	実践! 探究・グループディスカッション・プレゼンテーション/マイナビ進学編集部/マイナビ出版/ISBN:978-4839970833 プロジェクト学習の基本と手法—課題解決力と論理的思考力が身につく/鈴木敏恵/教育出版/ISBN:978-4316803500 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム 改訂版/後藤惠子、有田悦子、井手口直子[編]/羊土社/ISBN:978-4758109420
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、グループワーク、課題方授業、発表、質疑応答
実務経験のある教員による授業	臨床(医師、薬剤師)、医薬品安全管理業務に従事した経験から助言を行う。
留意事項	・この演習はグループワークや発表を行いながら進行するため原則として遅刻や欠席に対する補完はできません。また、1回の欠席が次回からの内容に大きく影響します。くれぐれも注意してください。 ・この演習では日本における地域社会の現状に目を向けることが必要です。様々な角度から積極的に情報収集を行って主体的に臨んでください。 ・資料の共有や指示等はmanabaを通して行います。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数（時間数）	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
調剤学 Dispensing Pharmacy	必修	講義	2単位 （30時間）	3年後期	加賀谷肇、寺島朝子、細谷龍一郎	○

ナンバリングコード	YCPF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及び、別途公開のオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。

授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
専門科目	DP1）社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2）専門的な知識・技術を発揮することができる。
薬学臨床	

授業概要	薬物治療の一環である調剤は、疾病治療に対する処方の妥当性の確認行為と薬剤学に立脚した技術的調剤行為である。調剤の守備範囲は広く、医薬品の調製のみならず、薬剤師による医薬品適正使用のための薬学的管理指導と対人業務にウエイトが置かれている。本講義では医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬支援、処方提案に関連する基本的知識、調剤の技術、調剤に対する姿勢・態度を修得する。
到達目標	1）薬剤師の使命を理解する。 2）処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。 3）処方オーダーリングシステムを説明できる。 4）処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。 5）調剤を法的記載事項に基づいて説明できる。 6）代表的な処方せん例の監査における注意点を説明できる。 7）不適切な処方せんの処置について説明できる。 8）代表的な医薬品の用法・用量および投与法について説明できる。 9）患者に適した剤形を選択できる。 10）患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。 11）病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。 12）服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。 13）薬物間相互作用のメカニズムを説明できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学修 （予習・復習・課題等）	SBOコード	担当教員
1	調剤学の基礎概念 （調剤論）	調剤の基礎、調剤の新しい概念　教科書 P1 ～46 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-③-11 F(2)-④-2 F(2)-⑤-1～6,12,1	加賀谷肇
2	調剤学の基礎概念 （医薬品の管理）	調剤学の基礎概念（医薬品の管理） 薬事関係法規　教科書 P47～52、 医薬品の特性、分類、名称、医薬品の管理　教科書 P105～116 購入管理、在庫管理、供給管理、毒薬・劇薬の表示、麻薬・向精神薬・覚醒剤の管理、生物由来製品・特定生物由来製品、生物学的製剤（その1）　教科書 P105～116 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-③-11 F(2)-④-2 F(2)-⑤-1～6,12,1	加賀谷肇
3	医薬品の管理実際	麻薬・向精神薬・覚醒剤の管理、生物由来製品・特定生物由来製品、生物学的製剤（その2）教科書 P105～116 添付文書　教科書 p75～93、薬剤疫学　教科書 P94～95 薬剤経済学　教科書 P97～98 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-④-2 F(2)-⑤-1～6,12,13	細谷龍一郎
4	医薬品の投与法	薬用量、疾患と禁忌の医薬品、投与剤形の選択など 教科書　P143～171 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(3)-③-1～4	寺島朝子
5	配合と併用	理化学的配合変化や併用に関する注意事項など 教科書　P191～201 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(3)-③-1～4	寺島朝子
6	薬物相互作用	薬物相互作用　教科書　P202～223 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(3)-③-1～4	寺島朝子
7	処方箋の点検	処方箋の点検、処方意図の理解、処方解析、医薬品の投与法（用法・用量）　教科書　P251～258、265～289 事前学修（20分）教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修（30分）教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-②-1～5	寺島朝子

8	処方と調剤業務①	内用剤　教科書　P251～258、361～385 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-①-1,2,4	寺島朝子
9	処方と調剤業務②	外用剤　教科書　P387～418 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-①-1,2,4	寺島朝子
10	注射剤の調剤①	注射剤概説、注射剤の調剤、注射処方箋と注射剤調剤の手順、注射剤セット業務　教科書　P419～431 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-②-1～5	細谷龍一郎
11	注射剤の調剤②	注射剤の混合調製(無菌製剤、バイオハザード含む)、輸液療法、電解質の補給・補正、注射剤の配合変化　教科書　P431～452 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-②-1～5	細谷龍一郎
12	服薬指導の基礎	薬歴作成と患者接遇、薬剤服用歴、薬剤師の病棟業務、在宅患者訪問薬剤管理指導業務　教科書　P305～318 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-②-1～5	寺島朝子
13	服薬指導の実際① (患者への情報提供)	コンプライアンスと患者コミュニケーション、服薬指導指針、薬剤情報提供の進め方、高齢者・小児・妊婦等への服薬指導など 教科書　P319～324、337～356 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-②-1～5	寺島朝子
14	服薬指導の実際② (重篤副作用と早期発見)	プレアボイド活動、服薬に伴う自覚症状、重大な副作用の初期症状など　教科書　P326～337 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-⑥-7	寺島朝子
15	医療制度 、まとめ	医療制度、医療施設、医療保障,まとめ　教科書　P503～524 事前学修(20分)教科書の該当ページを通読して予備知識を得ておく 事後学修(30分)教科書、講義資料を見直して知識を整理し、理解を深める	F(2)-⑥-7	加賀谷肇

評価	小テスト(30% 小単位ごとに5回実施する)、課題(10% 最終回に課題を提示する)、定期試験(60%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	・課題や小テスト等のフィードバックは講義時間内に口頭あるいはmanabaにて行う。 ・定期試験後は設定した質問日時に個別学修指導を希望学生に行う。
教科書	調剤学総論 改訂14版/堀岡正義/南山堂/ISBN:978-4-525-77234-5
参考図書など	第十四改訂 調剤指針/日本薬剤師会編/薬事日報社 実践処方例とその解説/第2版/井尻好雄 他編著/じほう
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある 教員による授業	すべての講義は実務経験のある教員が担当する。
留意事項	調剤学は実務実習事前学習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、さらには実務実習に直結する科目なので、暗記学修にとどまらず、知識の応用が可能となるよう一つ一つ丁寧に理解して知識の定着を図ること。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数（時間数）	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
実務実習事前学修Ⅰ Pre-study for Practical Training Ⅰ	必修	実験・実習	1単位 （45時間）	3年後期	寺島朝子、加賀谷肇、加藤裕久、国分秀也、定本清美、佐藤淳也、佐野和美、舩田正彦、古屋博行、小野塚真理、加藤英明、竹内尚子、鳥越一宏、池上大悟、細谷龍一郎、浦裕之、坂本沙祐里、田中怜	○

ナンバリングコード	YCPF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及び、別途公開のオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。

授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
専門科目 薬学臨床	DP1）社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2）専門的な知識・技術を発揮することができる。 DP3）地域の健康についての知識・教養を身につけている。 DP4）主体的に考え、他者と協調して行動し、発信することができる。

授業概要	4年次の実務実習事前学修ⅡおよびⅢに先立って、薬剤師として病院や薬局などで薬剤師の職務を遂行するために必要な、基本的知識、技能、態度を修得する。内容は、実際に経験する実習と、それに必要な講義及び演習で構成される。実習を通して、基本的知識と体験を結びつけ、臨床現場における薬剤師の位置づけや役割を具体的なイメージを持って学修する。
到達目標	1）医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について理解する。 2）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべきことを理解する。 3）患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を認識する。 4）病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。 5）病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。 6）病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。 7）病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 8）調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学修 （予習・復習・課題等）	SBOコード	担当教員
1	臨床で学ぶための準備（1）	心構え 医療の担い手が守るべき規範や法令 事前学修（30分）薬剤師としての心構えについて考えておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-1	寺島 朝子 加賀谷 肇 加藤 裕久 国分 秀也 定本 清美 佐藤 淳也 佐野 和美 舩田 正彦 古屋 博行 小野塚真理 加藤 英明 竹内 尚子 鳥越一宏 池上 大悟 細谷龍一郎 浦 裕之 坂本 沙祐里 田中 怜
2	臨床で学ぶための準備（2）	個人情報・自己決定権への配慮 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-2	
3	薬剤師の社会貢献	薬剤師の社会貢献の重要性 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-3	
4	薬局における薬剤師業務	薬局における薬剤師業務の流れ 薬局における薬学的管理の重要性 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-1 F-(1)-③-1, 2	
5	病院における薬剤師業務	病院における薬剤師業務の流れ 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-1 F-(1)-③-3	
6	入院患者に対する薬剤師業務（1）	病院における薬学的管理の重要性 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-③-1, 2	
7	入院患者に対する薬剤師業務（2）	病院に所属する医療スタッフの業務と薬剤師の関わり 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-③-4	
8	調剤業務に関わる事項	処方箋の取り扱い 処方箋の監査 疑義照会 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-1 F-(1)-③-2, 4 F-(2)-①-1	

評価	概略評価（45%）、課題・レポート（10%）、実習試験（45% 最終日に実施）で総合評価を行う。
課題に対する フィードバックの方法	実習中に習得状況等を確認しフィードバックする。また、毎回実習終了時に適宜質疑応答および補足説明を行う。その他、個別に質問があれば毎回の実習終了後やオフィスアワー等の時間に対応する。
教科書	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ　下　薬剤師業務の基本[技能]　第3版/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0938-3 実習書として「令和7度　実務実習事前学修Ⅰ　WORKBOOK」を別途配布する
参考図書など	①調剤学総論　改訂第14版/堀岡 正義 著/南山堂/ISBN: 978-4-525-77234-5 （調剤学の教科書） ②新ビジュアル薬剤師実務シリーズ　上　薬剤師業務の基本[知識・態度]　第3版/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0937-6 （実務実習事前学修Ⅱの教科書） ③第十四改訂 調剤指針 増補版/日本薬剤師会 編/薬事日報社/ISBN 978-4-8408-1596-3 C3047 ④臨床薬学Ⅰ（スタンダード薬学シリーズⅡ-7）/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917198
アクティブ・ラーニング	スモールグループディスカッションや発表、ロールプレイなどの手法で体験的に学修する。
実務経験のある 教員による授業	実習全体を通して実務経験のある教員が担当する
留意事項	・調剤学の内容を踏まえて理解を深めること。 ・実習のルールや進め方などについては第1回の実習の導入で説明する。 ・実務実習事前学修では清潔な白衣と調剤用の履物を着用する。準備等については事前にmanabaで連絡する。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数（時間数）	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
実務実習事前学習Ⅱ Pre-study for Practical TrainingⅡ	必修	実験・実習	2単位 （78時間）	4年前期	寺島朝子、加賀谷肇、加藤裕久、国分秀也、定本清美、佐藤淳也、佐野和美、舩田正彦、古屋博行、小野塚真理、加藤英明、竹内尚子、鳥越一宏、池上大悟、細谷龍一郎、浦裕之、坂本沙祐里、田中怜	○

ナンバリングコード	YCPF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後及び、別途公開のオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける。

授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
専門科目 薬学臨床	DP1）社会的責任感と使命感、倫理観を有し、国際社会の発展に貢献できる。 DP2）専門的な知識・技術を発揮することができる。 DP3）地域の健康についての知識・教養を身につけている。 DP4）主体的に考え、他者と協調して行動し、発信することができる。

授業概要

実務実習事前学習ⅡおよびⅢは、5年次に行われる薬局実務実習、病院実務実習に先立って、大学内で調剤、無菌操作、服薬指導、医薬品の供給・管理、薬物療法に必要な情報の取扱いなど、薬剤師の職務を遂行するために必要な知識、技能、態度を修得する。実務実習事前学習Ⅱでは、実務実習事前学習Ⅲで行う実践的なトレーニングに向けて、主に基礎・基本的な知識、技能を身につける。

到達目標

1）処方箋の受付から投薬までの基本的な流れを理解して、説明できる。
2）処方箋に基づき疑義照会ができる。
3）処方箋に基づき薬袋・薬札を作成できる
4）処方箋に基づく基本的な計数調剤ができる。
5）計量調剤（散剤、水剤、軟膏）の器具の取扱いができる。
6）注射剤と輸液の調剤の基本的な知識を修得する。
7）患者・来局者対応を基本的知識に基づき実施できる。
8）服薬指導を基本的知識に基づき実施できる。
9）患者教育を基本的知識に基づき実施できる。
10）患者および種々の情報源から、薬物療法に必要な情報を収集し、活用できる。
11）医薬品の管理と供給に関わる基本的知識と技能を修得して、適切に取扱うことができる。
12）処方から服薬までの過程において生じやすい過誤や、医薬品のリスクを理解し、リスク回避の具体策と発生後の対処法を考える。
13）医療チームの一員として病院・薬局における薬剤師の業務や地域の保健・医療・福祉における薬剤師の役割について説明できる。
14）災害時における薬剤師の役割について説明できる。
15）プライマリケア、セルフメディケーションの重要性を理解し、適切な対応の選択やアドバイスができる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 （予習・復習・課題等）	SBOコード	担当教員
1	オリエンテーション	臨床における心構え 薬剤師の役割 薬学臨床の基礎 事前学修（30分）実務実習事前学習Ⅰのワークブックを振り返っておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(1)-②-1, 2, 3 F-(1)-③-1, 2, 3, 4	寺島 朝子 加賀谷 肇 加藤 裕久 国分 秀也 定本 清美 佐藤 淳也 佐野 和美 舩田 正彦 古屋 博行 小野塚真理 加藤 英明 竹内 尚子 鳥越一宏 池上 大悟 細谷龍一郎 浦 裕之 坂本 沙祐里 田中 怜
2	医薬品調製の基礎 （1）処方監査、疑義照会	処方監査 疑義照会 後発医薬品の選択手順 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-②-1, 2, 3, 4, 5, 6 F-(2)-③-4, 5 F-(2)-⑥-1	
3	医薬品調製の基礎 （2）処方箋に基づく薬袋作成、計数・計量調剤	薬袋・薬札作成 計数調剤 計量調剤（散剤、水剤、軟膏）と監査 散剤・水剤・軟膏の配合変化 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-③-1, 2, 3, 5, 8	
4	医薬品調製の基礎 （2）処方箋に基づく薬袋作成、計数・計量調剤	薬袋・薬札作成 計数調剤 計量調剤（散剤、水剤、軟膏）と監査 散剤・水剤・軟膏の配合変化 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-③-1, 2, 3, 5, 8	
5	医薬品調製の基礎 （3）注射剤と輸液	薬袋・薬札作成 注射剤・輸液の種類と適応 注射剤・輸液の調剤と監査 注射剤・輸液の配合変化 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-③-1, 2, 5, 8 F-(3)-③-4, 5, 6	
6	医薬品調製の基礎 （4）患者・来局者応対、服薬指導	患者・来局者応対 服薬指導 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-④-1, 2, 3, 4, 5	
7	医薬品調製の基礎 （5）患者教育	患者教育 使用上の説明が必要な製剤の取扱い方法 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-④-1, 5, 6, 7, 8	

8	薬物療法の実践のための基礎 （1）患者情報の把握	基本的な医療用語、略語 患者情報の把握 フィジカルアセスメント アドヒアランスの評価と対処法 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(3)-①-1, 2, 3, 4 F-(3)-③-3	'寺島 朝子 加賀谷 肇 加藤 裕久 国分 秀也 定本 清美 佐藤 淳也 佐野 和美 舩田 正彦 古屋 博行 小野塚真理 加藤 英明 竹内 尚子 鳥越一宏 池上 大悟 細谷龍一郎 浦 裕之 坂本 沙祐里 田中 怜
9	薬物療法の実践のための基礎 （2）医薬品情報の収集と活用	医薬品情報に基づく医薬品の評価 医薬品情報の収集・整理・加工 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	E3-(1)-⑦-2, 3 F-(3)-②-1	
10	薬物療法の実践のための基礎 （3）処方設計と提案	科学的根拠に基づいた薬物投与設計 病態や整理特性を考慮した薬剤選択 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	E4-(2)-②-3 F-(3)-③-1, 2	
11	薬物療法の実践のための基礎 （4）薬物療法の効果と副作用の評価、POSによる記録	医薬品の効果、副作用のモニタリングと評価 POSの考え方を利用した記録の記載方法 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(3)-③-3 F-(3)-④-1, 2, 3	
12	医薬品の供給と管理	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料、特定生物由来製品等の管理と取扱い 院内製剤 薬局製剤・漢方製剤 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-⑤-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
13	安全管理（リスクマネジメント）	ハイリスク薬管理 調剤過誤防止・インシデント報告 スタンダードプリコーション リスクマネジメントプラン 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(2)-⑥-1, 2, 3, 5, 6, 7	
14	在宅医療・居宅介護と薬剤師	医療機関におけるチーム医療 地域におけるチーム医療 在宅（訪問）医療・介護 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(4)-①-1, 2, 3 F-(4)-②-1, 2 F-(5)-①-1, 2, 3	
15	地域保健への参画 災害時医療と薬剤師	地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画 災害時医療 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(5)-②-1, 2 F-(5)-④-1	
16	プライマリケア、セルフメディケーションの実践	プライマリケア セルフメディケーション 要指導医薬品・一般用医薬品の取り扱い 事前学修（30分）ワークブックの該当箇所に目を通しておく。 事後学修（30分）ワークブックの該当ページを振り返り、理解を深めること。	F-(5)-③-1, 2, 3, 4	

評価	概略評価（45%）、課題・レポート（10%）、実習試験（45% 最終日に実施）で総合評価を行う。
課題に対する フィードバックの方法	実習中に習得状況等を確認しフィードバックする。また、毎回実習終了時に適宜質疑応答および補足説明を行う。その他、個別に質問があれば毎回の実習終了後やオフィスアワー等の時間に対応する。
教科書	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ　上　薬剤師業務の基本[知識・態度]/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版 /ISBN 978-4-7581-0937-6 実習書として「令和7年度　実務実習事前学習Ⅱ　WORKBOOK」を別途配布する
参考図書など	①調剤学総論　改訂第14版/堀岡 正義 著/南山堂/ISBN: 978-4-525-77234-5 （調剤学の教科書） ②'新ビジュアル薬剤師実務シリーズ　下　薬剤師業務の基本[技能]　第3版/上村直樹、平井みどり 編/羊土社/第3版/ISBN 978-4-7581-0938-3 （実務実習事前学習Ⅰの教科書） ③第十四改訂 調剤指針 増補版/日本薬剤師会 編/薬事日報社/ISBN 978-4-8408-1596-3 C3047 ④臨床薬学Ⅰ（スタンダード薬学シリーズⅡ-7）/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917198 ⑤臨床薬学Ⅱ（スタンダード薬学シリーズⅡ-7）/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917204 ⑥臨床薬学Ⅲ（スタンダード薬学シリーズⅡ-7）/日本薬学会等 編/東京化学同人/ISBN 9784807917211
アクティブ・ラーニング	スモールグループディスカッションや発表、ロールプレイなどの手法で体験的に学修する。
実務経験のある 教員による授業	実習全体を通して実務経験のある教員が担当する
留意事項	・調剤学および実務実習事前学習Ⅰの内容を踏まえて理解を深めること。 ・実習のルールや進め方などについては第1回の実習の導入で説明する。 ・実務実習事前学修では清潔な白衣と調剤用の履物を着用する。準備等については事前にmanabaで連絡する。

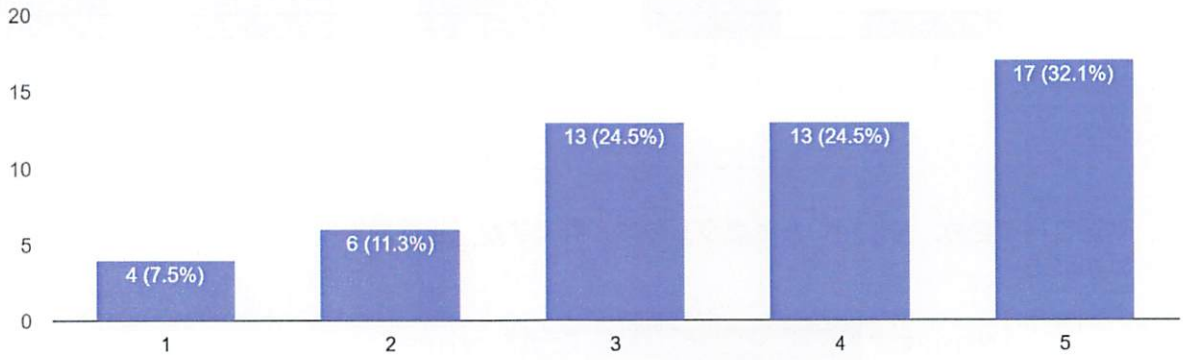
2025 年度　薬学部授業評価アンケート

科目名	医療薬学チュートリアル演習 I	科目担当教員	寺島　朝子
コード	YCPO2	配当年次	2 年前期
評定点	77.19	必修・選択の別	必修

アンケート結果

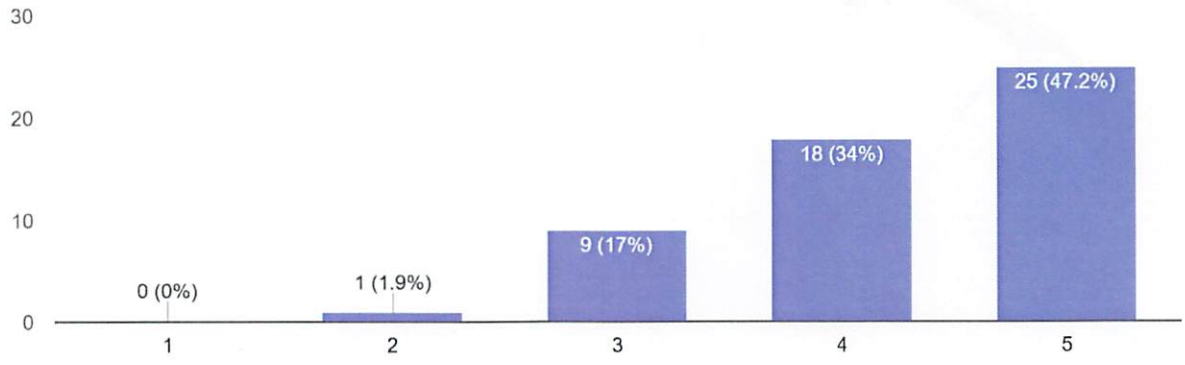
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

53 件の回答



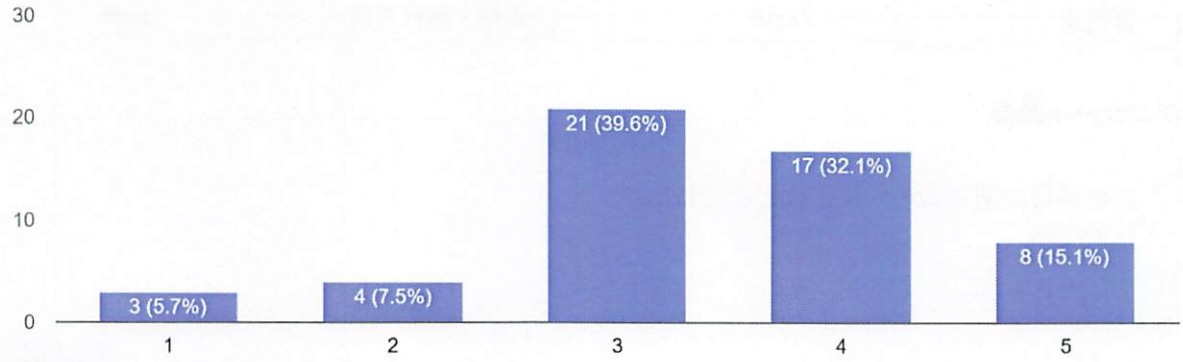
この授業の難易度はどうでしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

53 件の回答



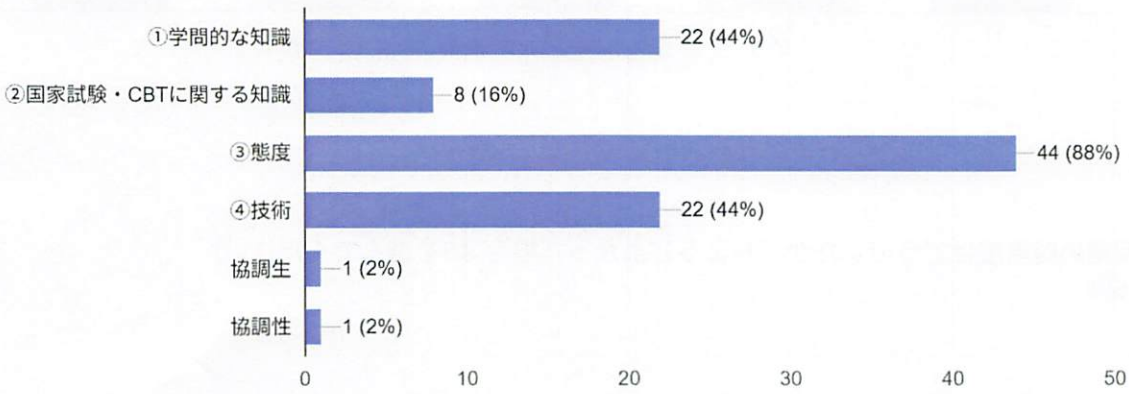
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

53 件の回答



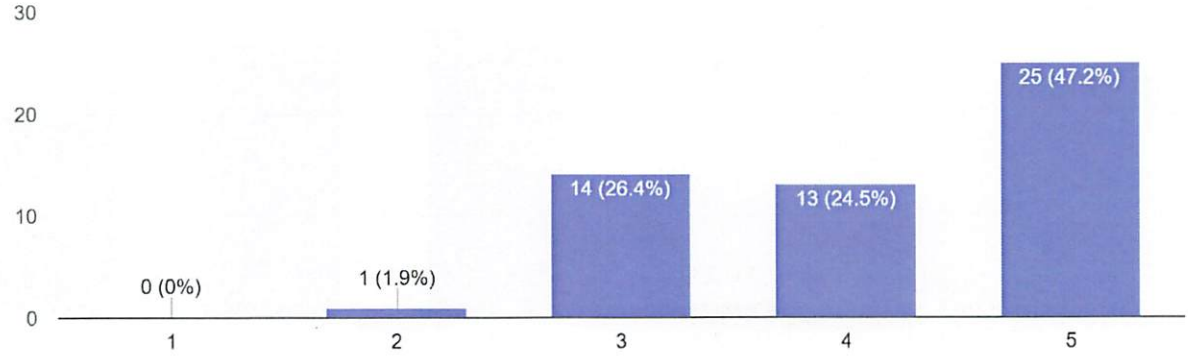
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか（複数選択可）

50 件の回答



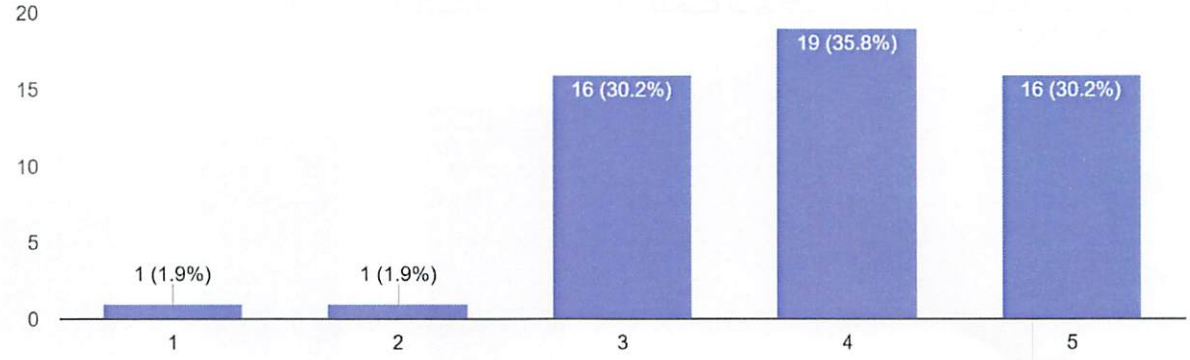
教員に熱意は感じられましたか

53 件の回答



講義の進行速度は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

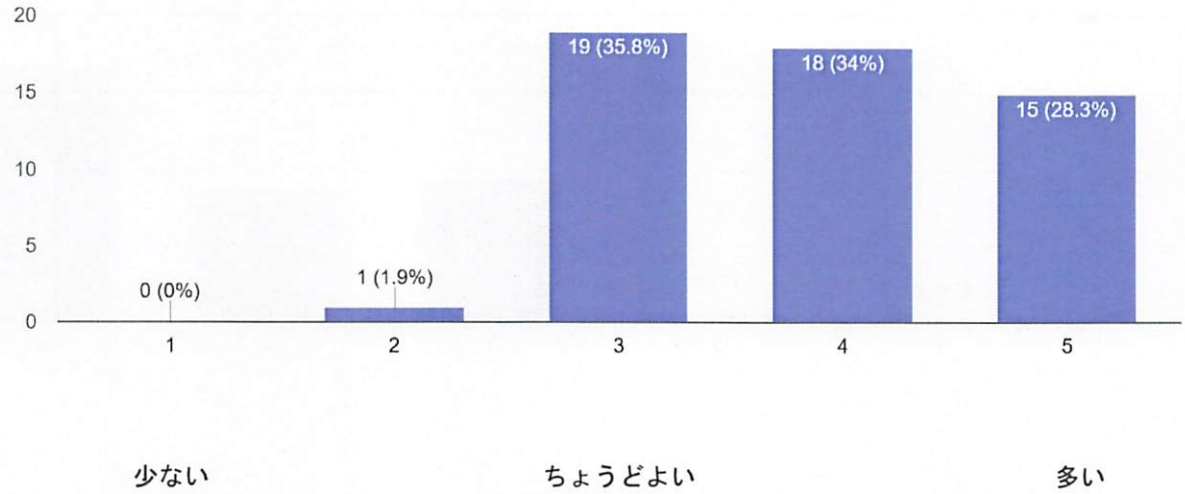
53 件の回答



遅い　　ちょうどよい　　速い

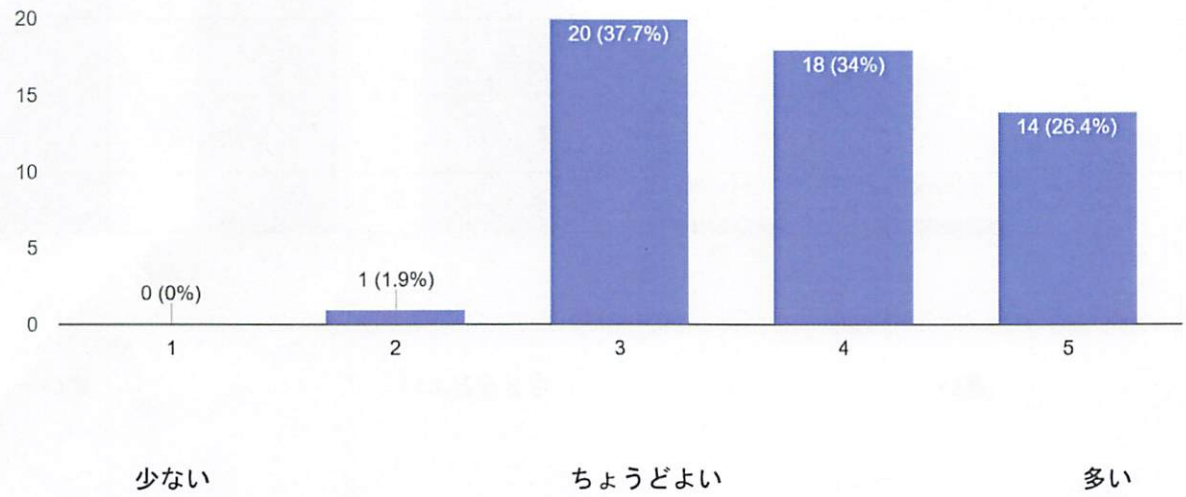
一回の講義内容の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

53 件の回答



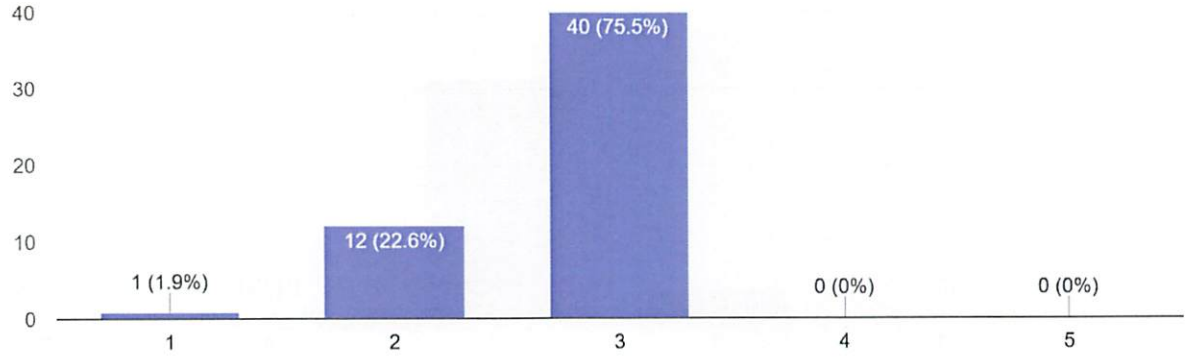
課題の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

53 件の回答



字の大きさは適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

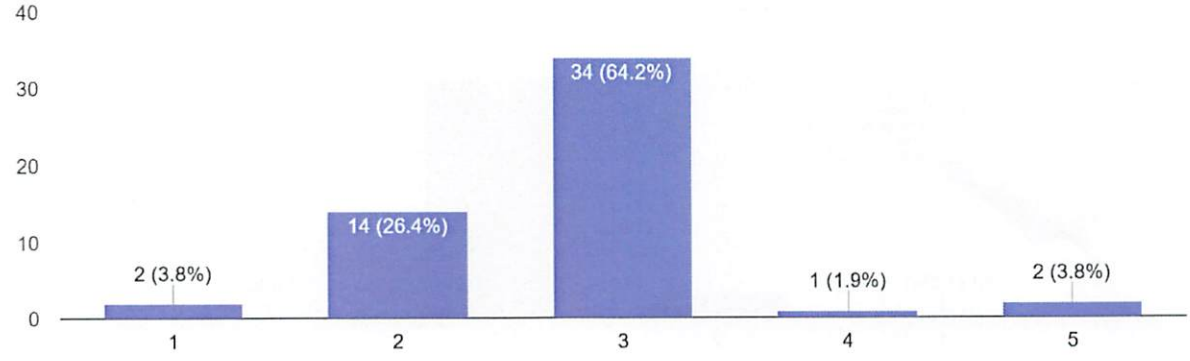
53 件の回答



小さい　　ちょうどよい　　大きい

資料・板書の内容は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

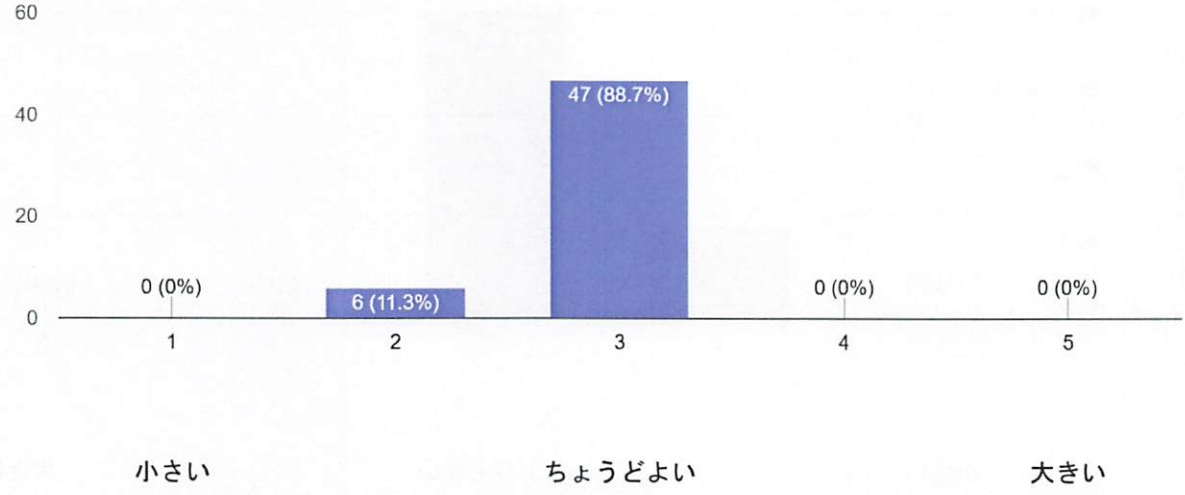
53 件の回答



不足していた　　ちょうどよい　　詳しすぎた

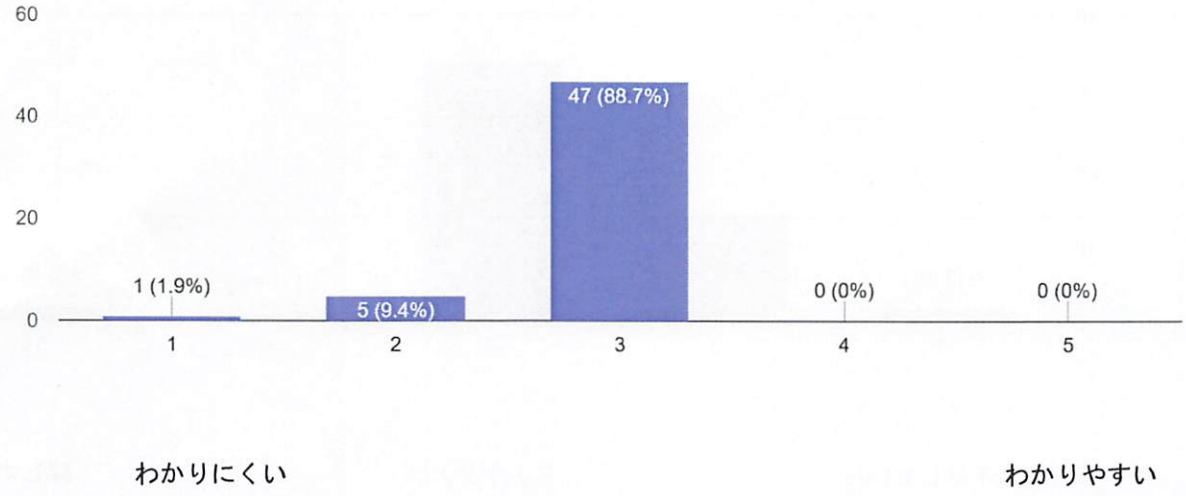
図の大きさは適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

53 件の回答

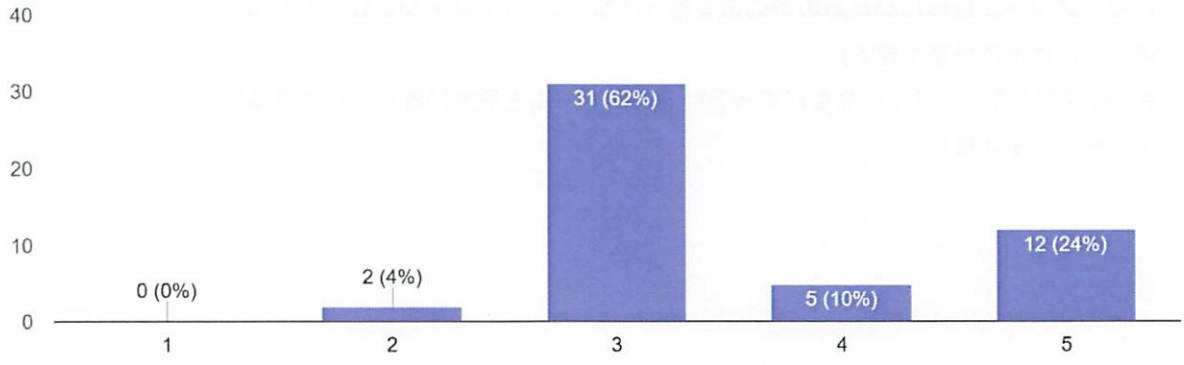


図の内容は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

53 件の回答



講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は３を選んでください）
50 件の回答



されていなかった　　された

自由記述欄

・時間が少ないと思った。
・前半の「薬学生の生活」という題材はやり方が分からない中で議論するには題材の幅が大きすぎた。
・同じ班にしか先生が来てくれなかった。(後半) 前半の時みたいに班についてくれる先生を決めた方がいいと思う。（前半２班、後半４班）
・内容がよくわからなかった
・個人的にテーマが難しいと思った
・ありがとうございました
・もう少し教員同士での報連相をしっかりして欲しいと思った。人によって違うことを言われることでかえって混乱を招いていた印象を受けた。（前半４班、後半６班）
・決まった短い時間で発表まで持ってくのがつらかった
・普段やらないような役割をできて良かった。もっと積極的に発言したり質問に答えれたら良かったなと思った。
・時間制限に少し無理があるので、もう少し長めにとって欲しいです。
・色々な人と話せてよかった。ただ、初めに何をしたらいいのか何を書けばいいのか先生の意図を理解できず時間がかなりかかってしまいました。例として去年の人たちの発表を題材にすると理解しやすかったのではないかと思います。
・グループワークが思ったように進まず難しかったです。
・この授業を通して班員の方とコミュニケーションをとり協調性をみにつけることが出来ました。ありがとうございました。
・良いプレゼンテーションやポートフォリオを作ることがとても大変だった。
・色んな人と話し合う機会が今まで無かったので、いい経験になりました!

・何をしていたのか最後までよく分からなかった。
・薬学生らしいことというテーマでいきなり「イケメンと結婚したい」などと爆弾を放り込んできた班員への対応に終始追われる羽目になり、無難な方向へ無難な方向へと持っていく結果になってしまった。こういったモンスターが班員にいた時の対応法を教えて欲しい。(イケメン以外にもやらかしすぎているがここに記述するには余白が狭すぎる)
・先生が平等に回ってない。先生がずっといるのにちゃんと見ていないせいで理解度が低い質問がされた。(前半５班、後半４班)

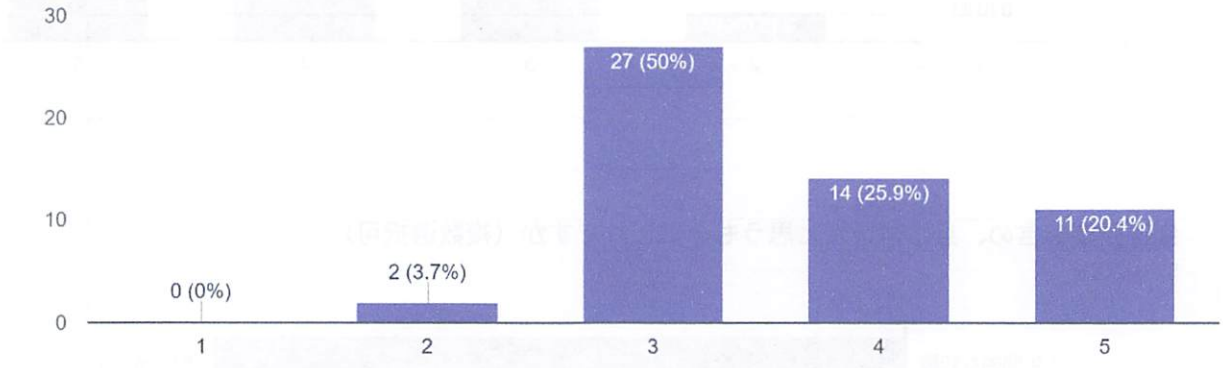
2025 年度　薬学部授業評価アンケート

科目名	調剤学	科目担当教員	加賀谷肇
コード	YCPF2	配当年次	3 年後期
評定点	92.24	必修・選択の別	必修

アンケート結果

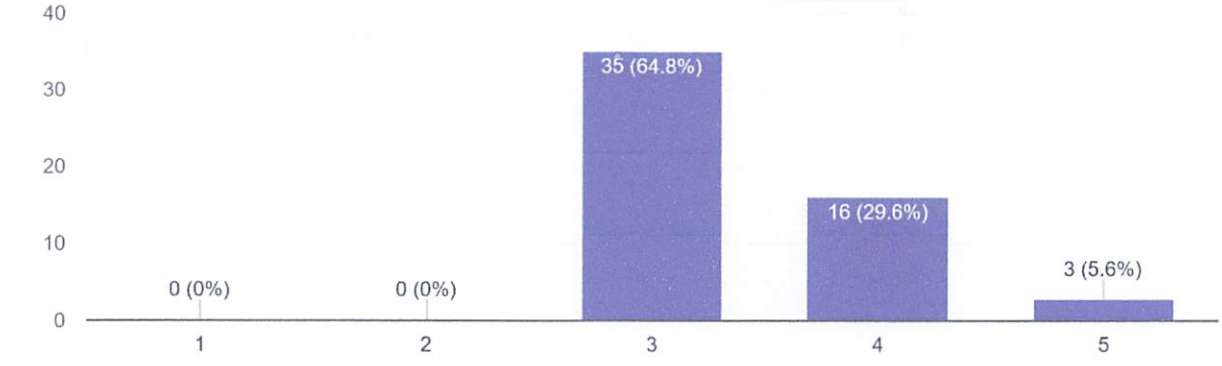
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

54 件の回答



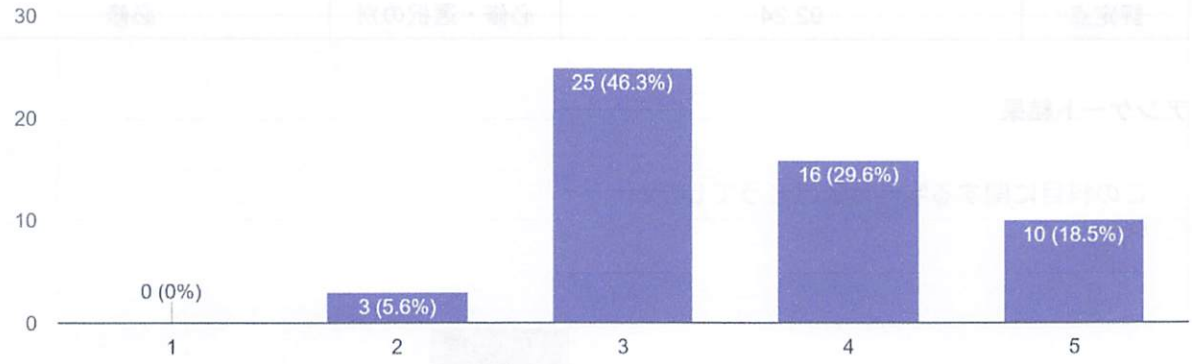
この授業の難易度はどうでしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

54 件の回答



この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

54 件の回答



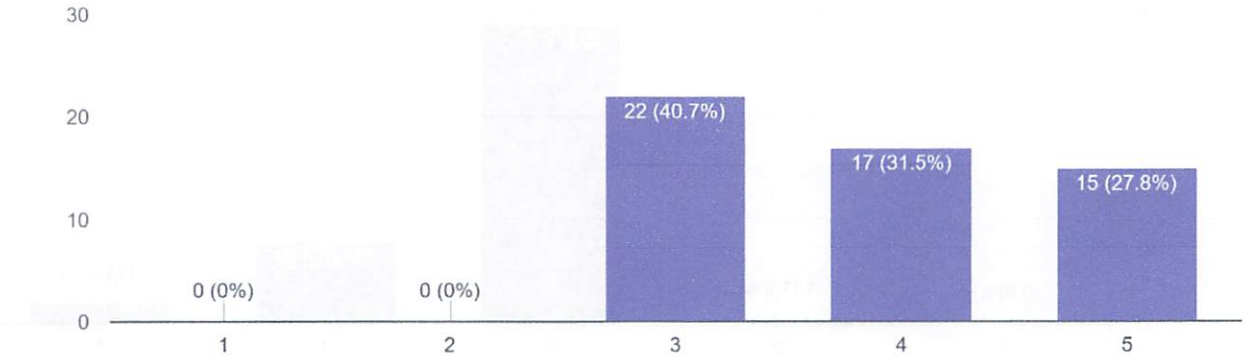
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか（複数選択可）

52 件の回答



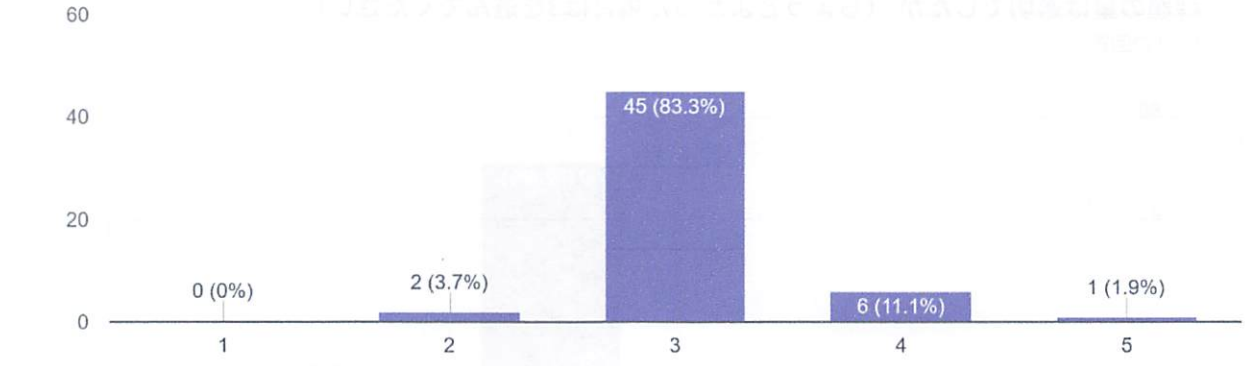
教員に熱意は感じられましたか

54 件の回答



講義の進行速度は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

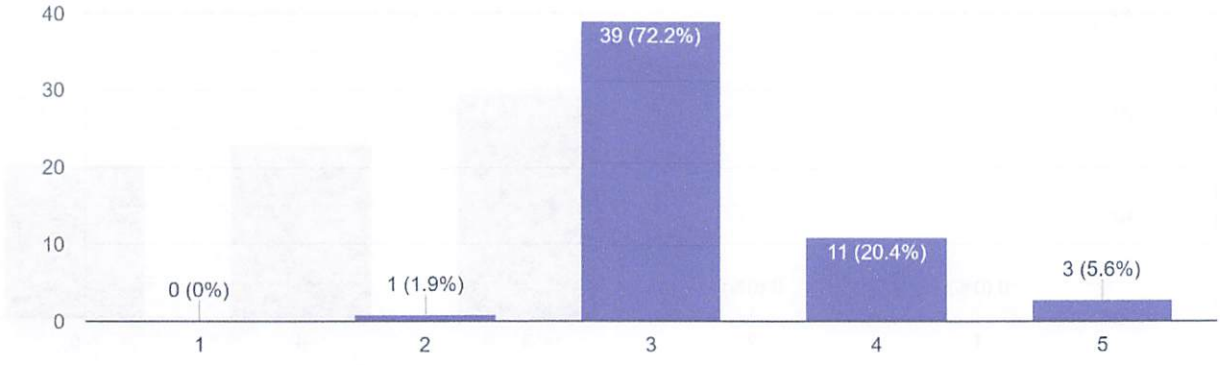
54 件の回答



遅い　　ちょうどよい　　速い

一回の講義内容の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

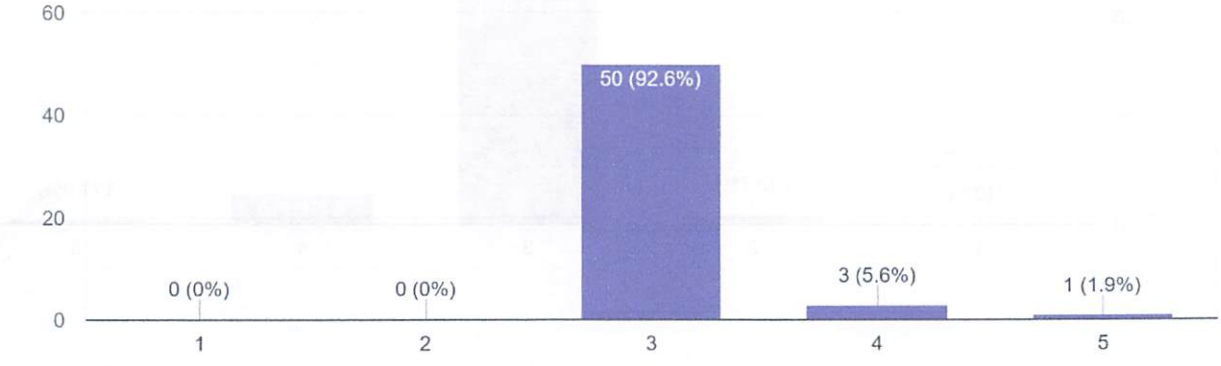
54 件の回答



少ない　　ちょうどよい　　多い

課題の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

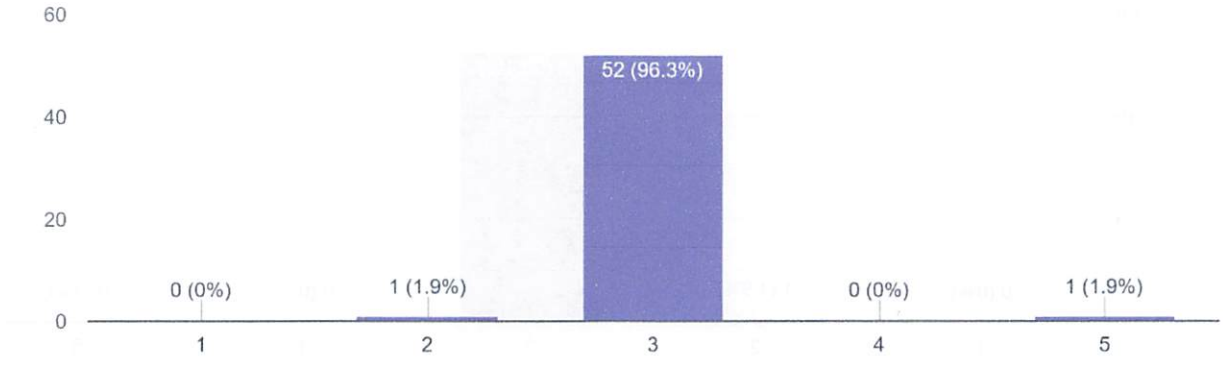
54 件の回答



少ない　　ちょうどよい　　多い

字の大きさは適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

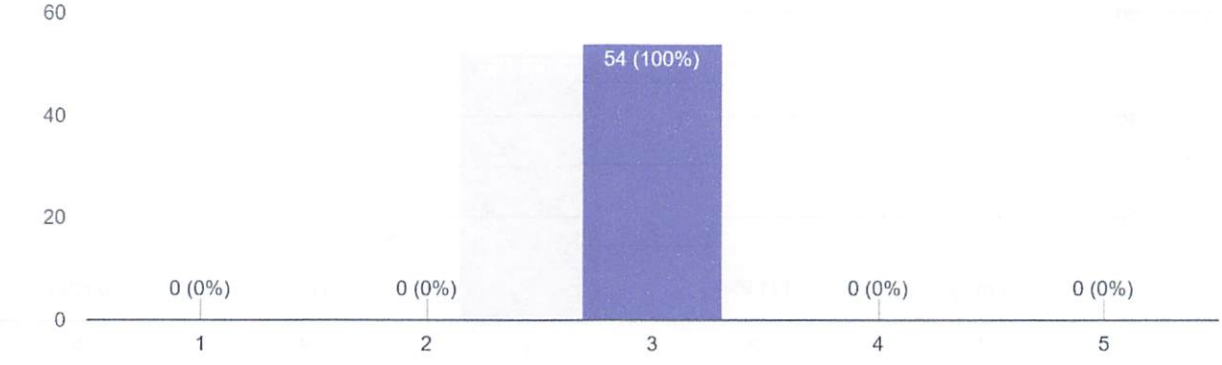
54 件の回答



小さい　　ちょうどよい　　大きい

資料・板書の内容は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

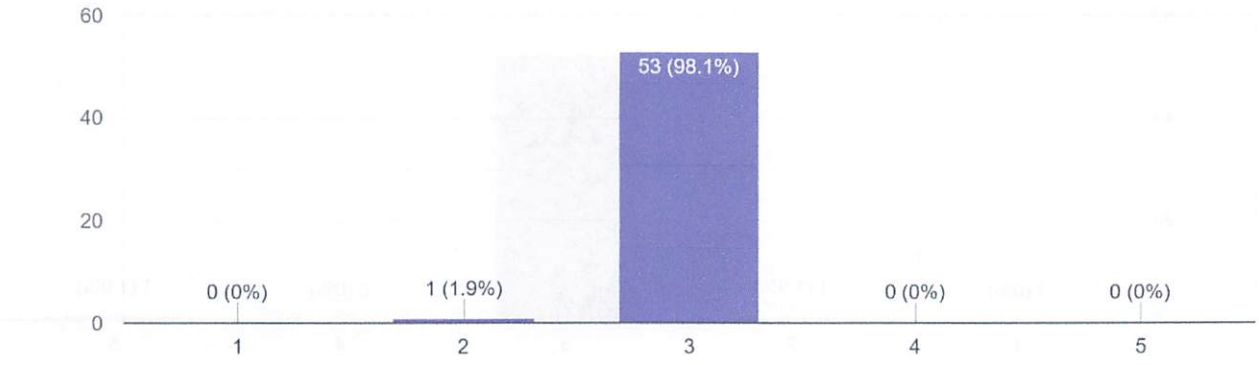
54 件の回答



不足していた　　ちょうどよい　　詳しすぎた

図の大きさは適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

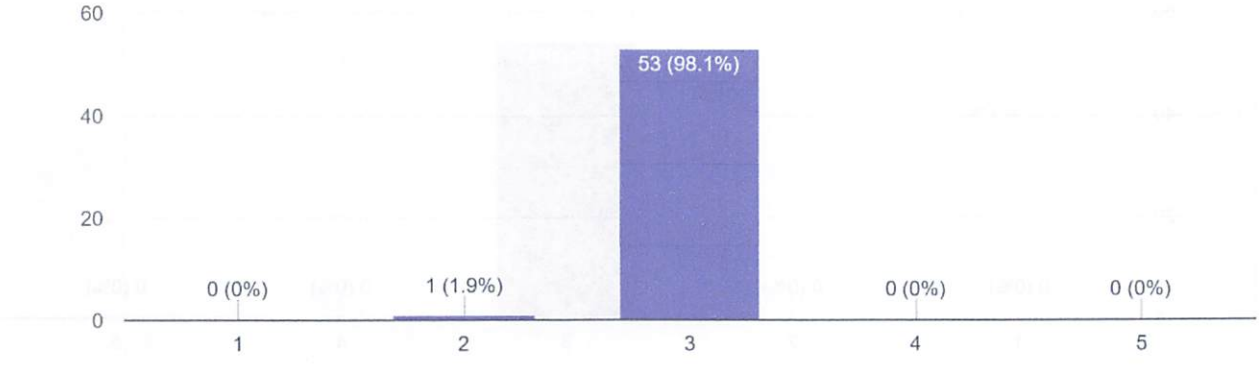
54 件の回答



小さい　　ちょうどよい　　大きい

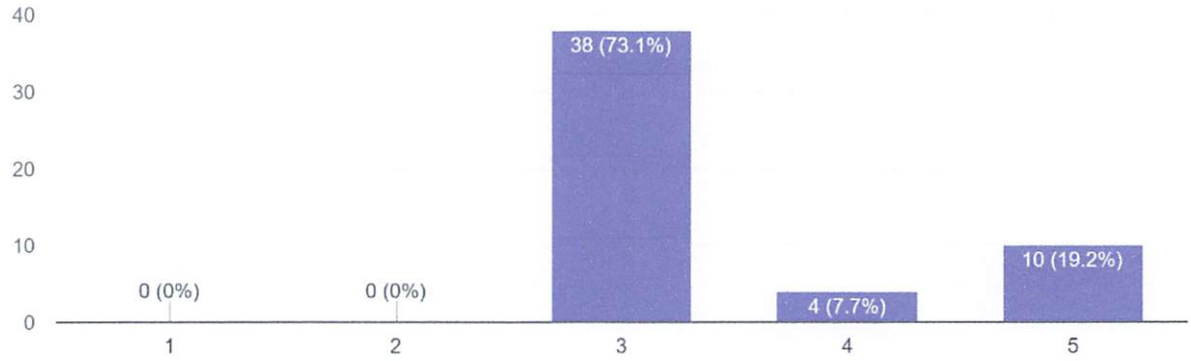
図の内容は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

54 件の回答



わかりにくい　　わかりやすい

講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は３を選んでください）
52 件の回答



されていなかった　　された

自由記述欄

・資料に国試問題が載ってたのが参考になりよかった。
・この学年は～できないとなど、主語が大きいことがあったので出来ている人がいる中でよくないのではと感じました。
・先生によって授業の進め方、レジュメの見やすさが違ったが寺島先生と細谷先生はわかりやすかったと思う。
・すばーてる

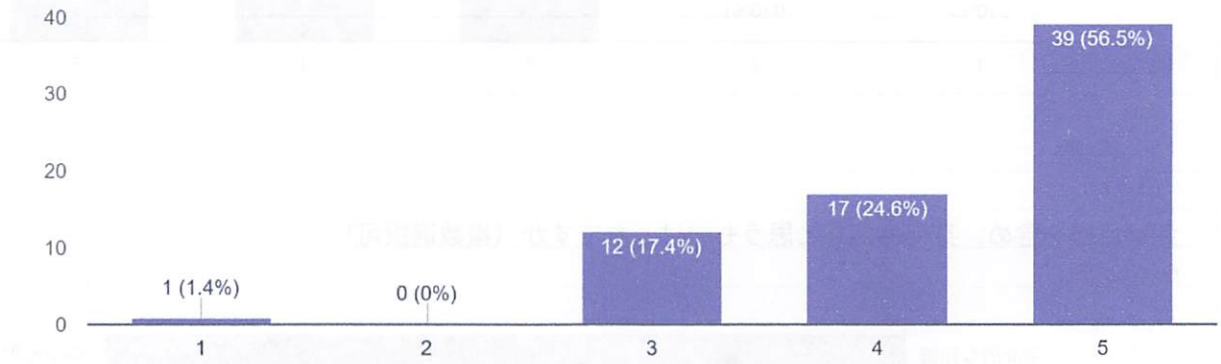
2025 年度　薬学部授業評価アンケート

科目名	実務実習事前学習 I	科目担当教員	寺島朝子
コード	YCPF2	配当年次	3 年後期
評定点	90.47	必修・選択の別	必修

アンケート結果

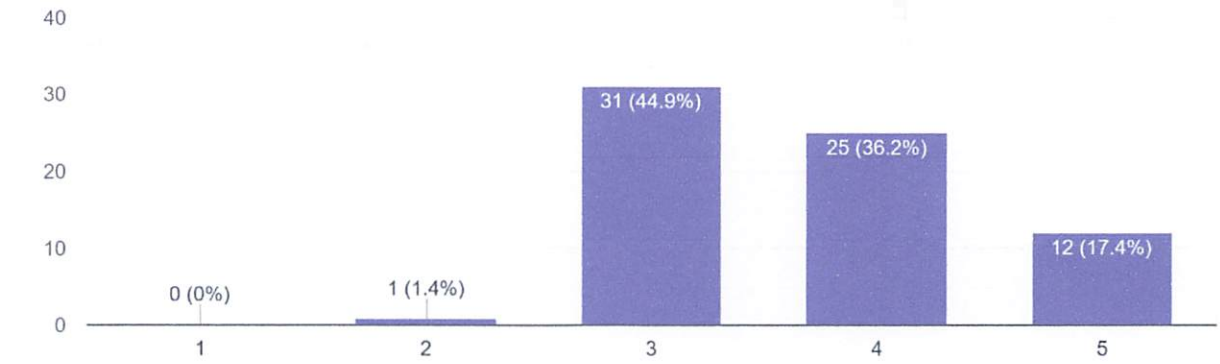
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

69 件の回答



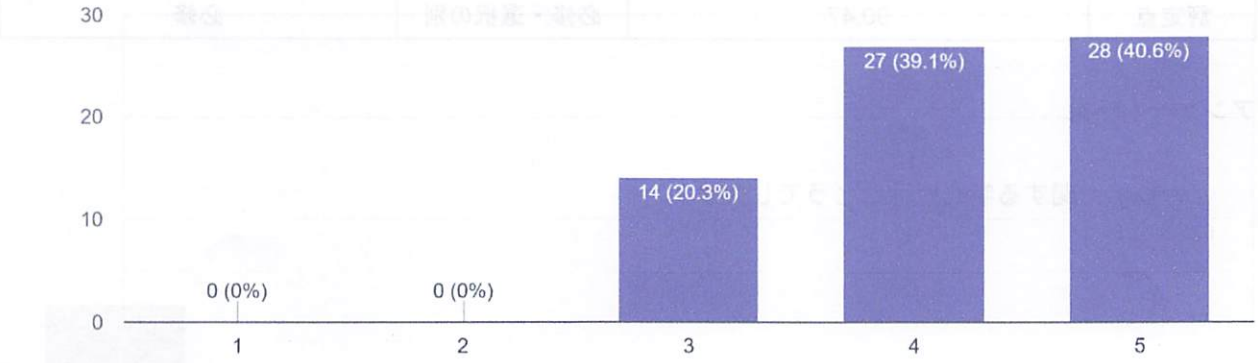
この授業の難易度はどうでしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

69 件の回答



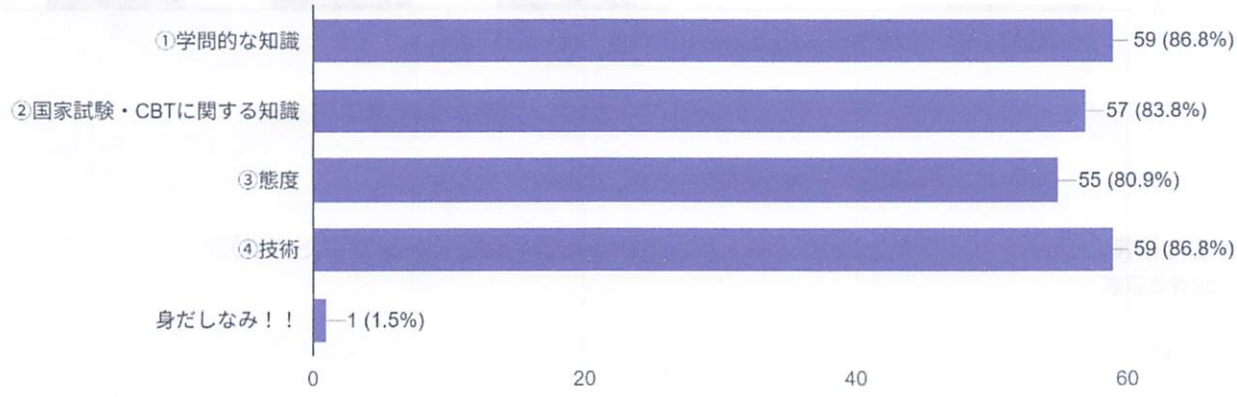
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

69 件の回答



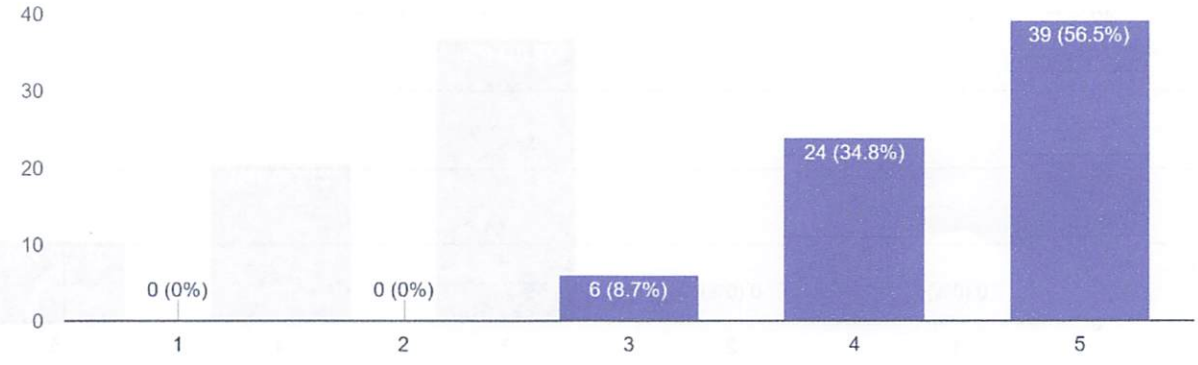
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか（複数選択可）

68 件の回答



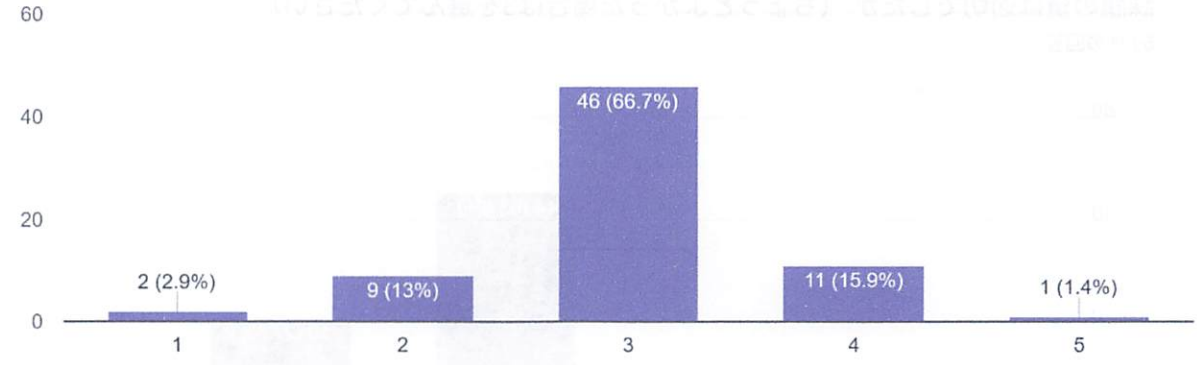
教員に熱意は感じられましたか

69 件の回答



講義の進行速度は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

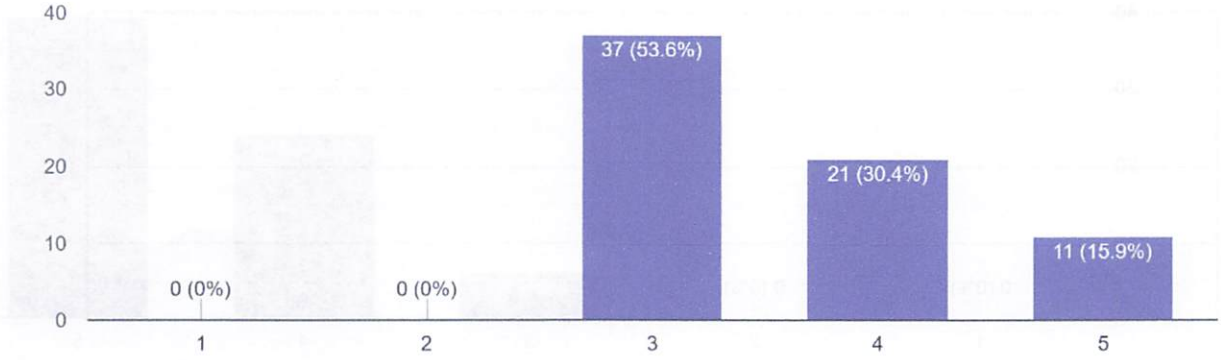
69 件の回答



遅い　　ちょうどよい　　速い

一回の講義内容の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

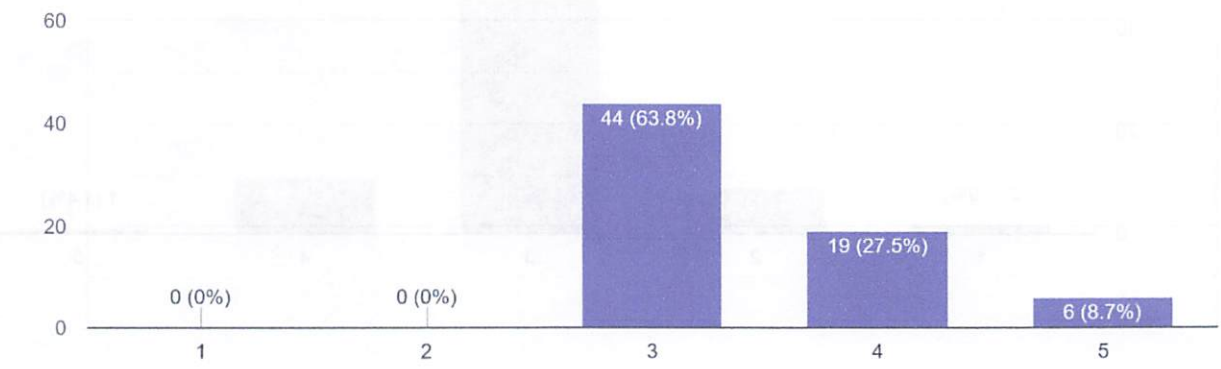
69 件の回答



少ない　　ちょうどよい　　多い

課題の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

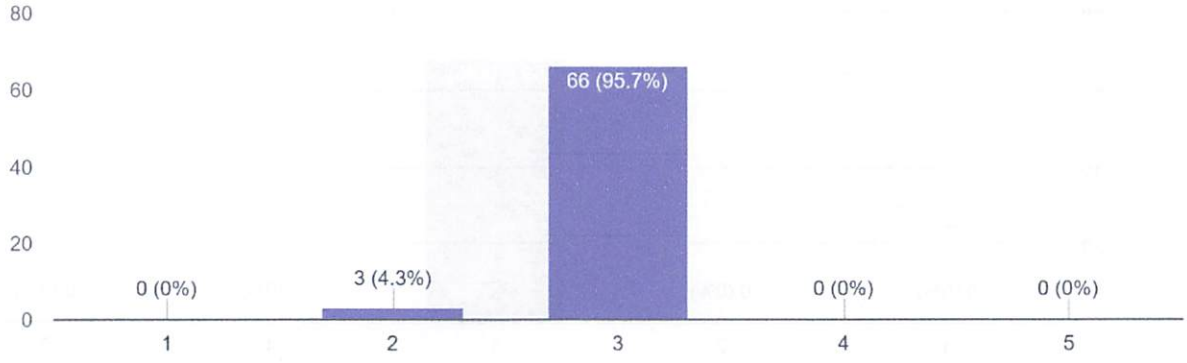
69 件の回答



少ない　　ちょうどよい　　多い

字の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

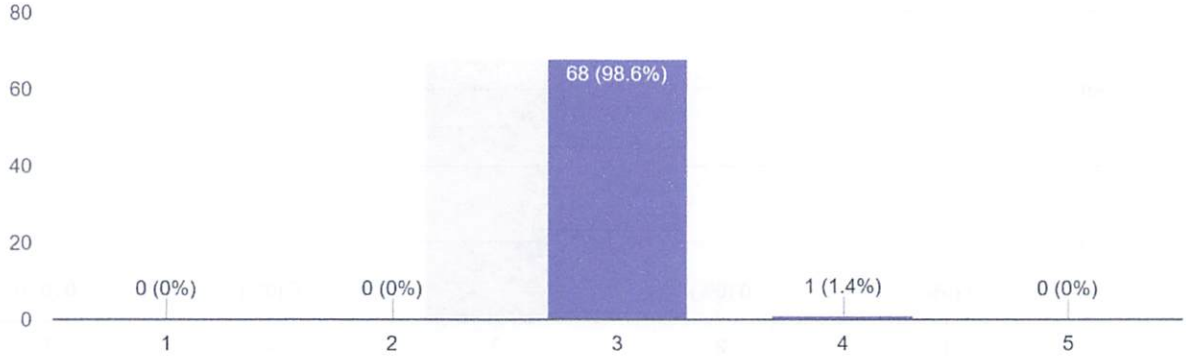
69 件の回答



小さい　　ちょうどよい　　大きい

資料・板書の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

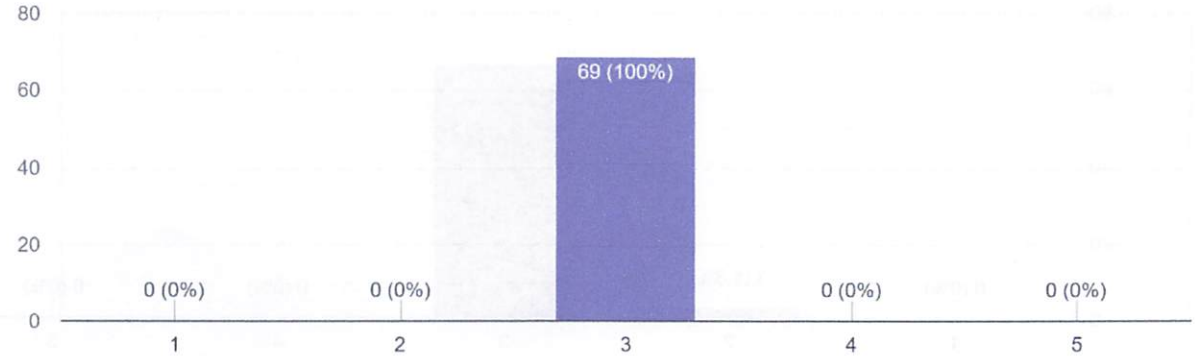
69 件の回答



不足していた　　ちょうどよい　　詳しすぎた

図の大きさは適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

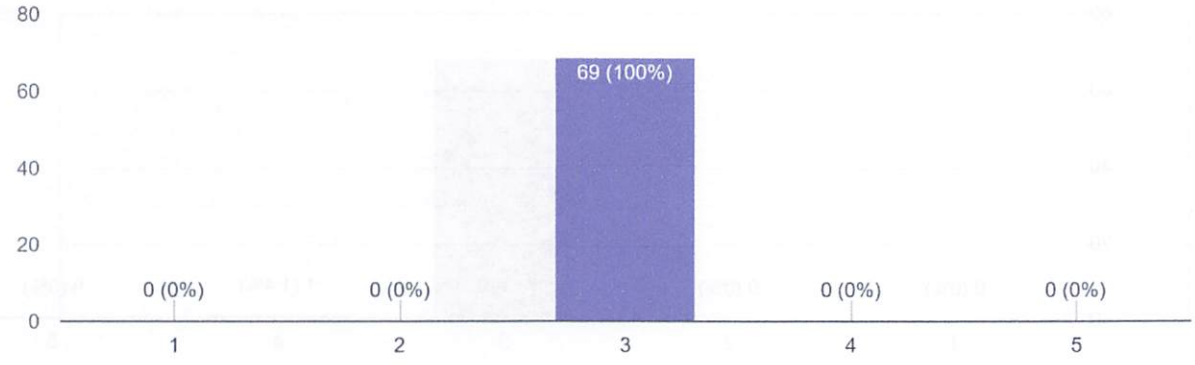
69 件の回答



小さい　　ちょうどよい　　大きい

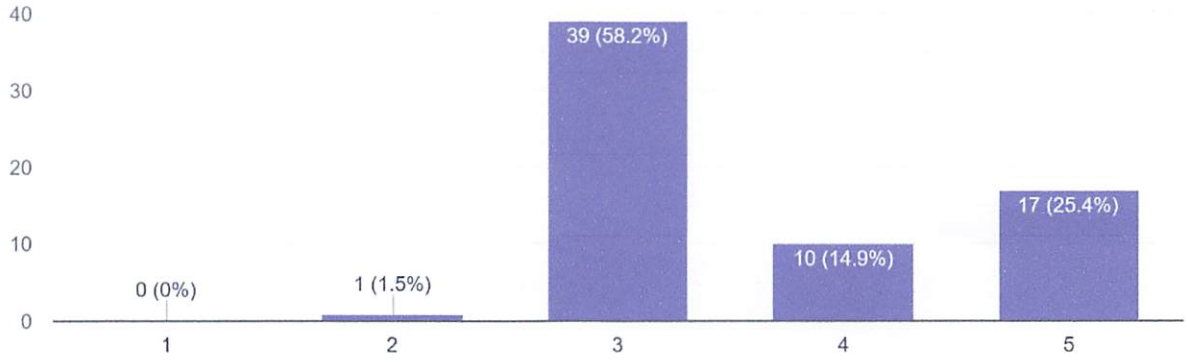
図の内容は適切でしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

69 件の回答



わかりにくい　　わかりやすい

講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は３を選んでください）
67 件の回答



されていなかった　　された

自由記述欄

・講義で習ったことや薬を実際にやってみたり、見てみることでより理解を深められた
・資料をまとめて欲しい。
・軟膏は結構作るのが大変なとこ
・軟膏調剤の練習の時に先生が前で実演してくれていたが 1 番後ろの席からは何も見えず悩みながら軟膏を調剤していたので先生の説明する配置を変えるか半分に分けて前の班で教える人後ろの班で教える人で分けて欲しいと思いました
・初めて薬剤師してます!という感じの内容の実習で楽しかったです。元々金髪だった人が黒くしたら“もっとあげていいんだよ、努力してるんだから”と言われてましたが、元々黒の人からしたらなんかちょっと嫌な気分になりました。
・事前学習と記載されてなくても、実習当日ではやってきて当たり前というようなスピードで進んでいたので、事前学習してほしいところをわかりやすくしてほしい。
・実技の部分でもう少し練習する時間が欲しかったと感じた。
・身だしなみの基準などを統一して欲しい。また、説明が明確でないとことが多々あった。
・実技試験で実際に軟膏をなっているわけじゃないから、想定でヘラとかを使ってやるのは難しかった。
・すべての項目ではないですが、もう少し効率よく実習が進められたら良かったなと思います。

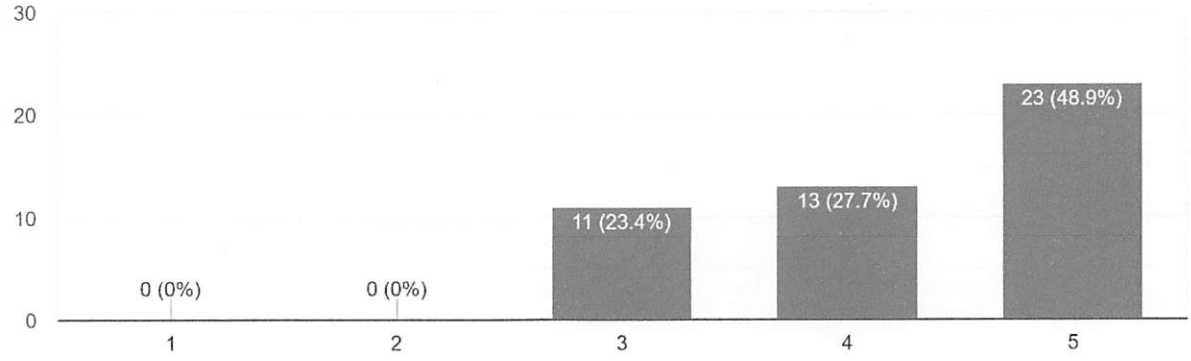
2025 年度　薬学部授業評価アンケート

科目名	実務実習事前学習 II	科目担当教員	寺島朝子
コード	YCPF2	配当年次	4 年前期
評定点	92.96	必修・選択の別	必修

アンケート結果

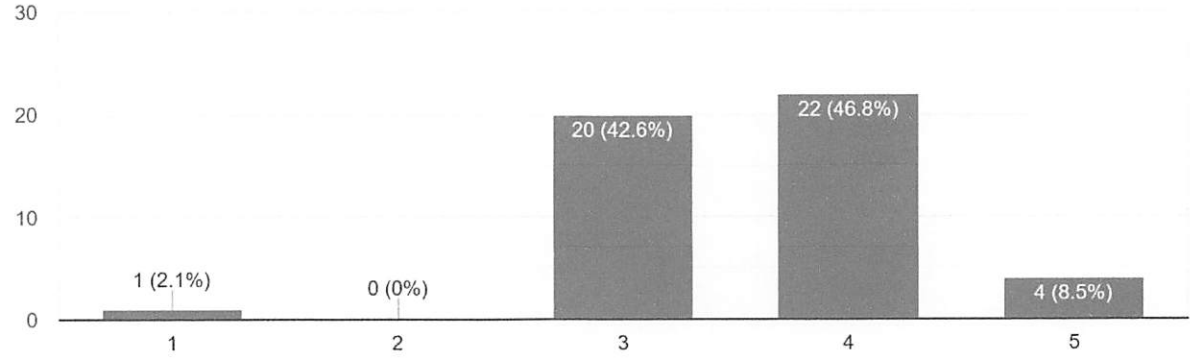
この科目に関する学修意欲はどうでしたか

47 件の回答



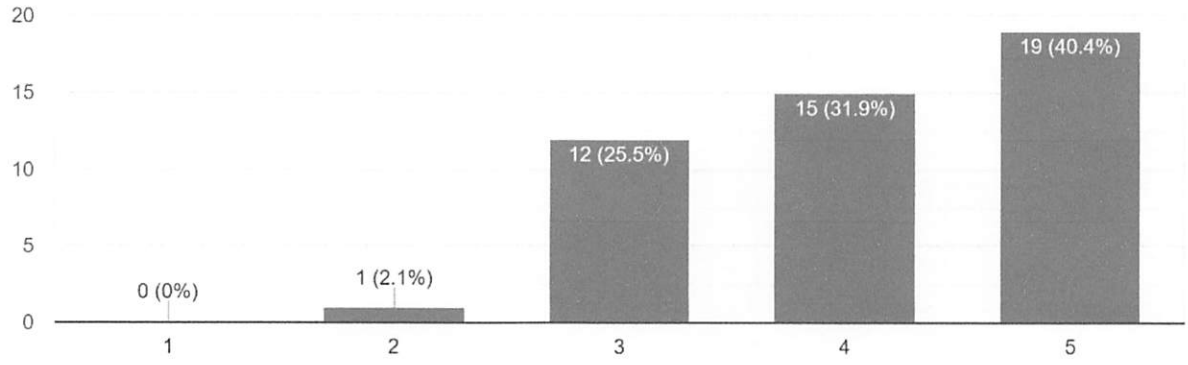
この授業の難易度はどうでしたか（ちょうどよかった場合は3を選んでください）

47 件の回答



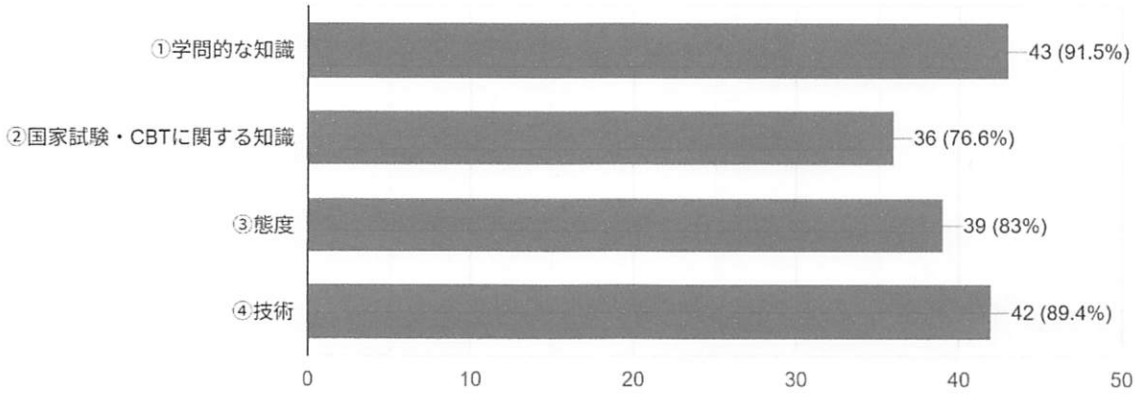
この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)

47 件の回答



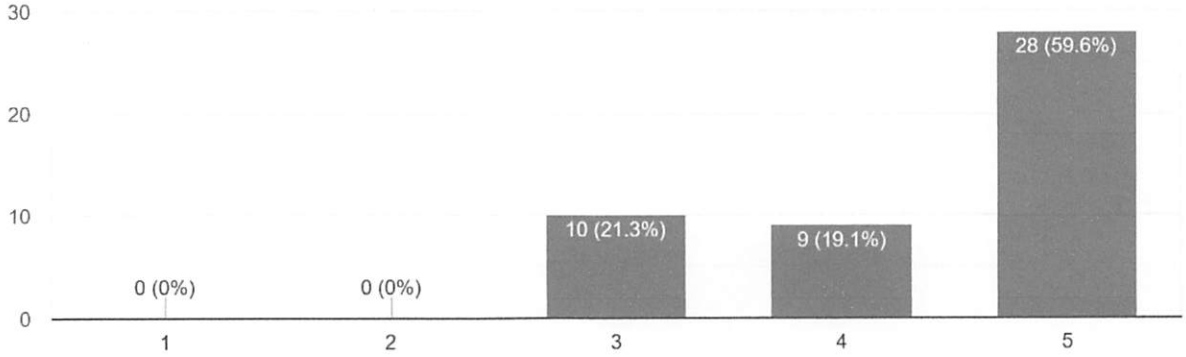
到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか（複数選択可）

47 件の回答



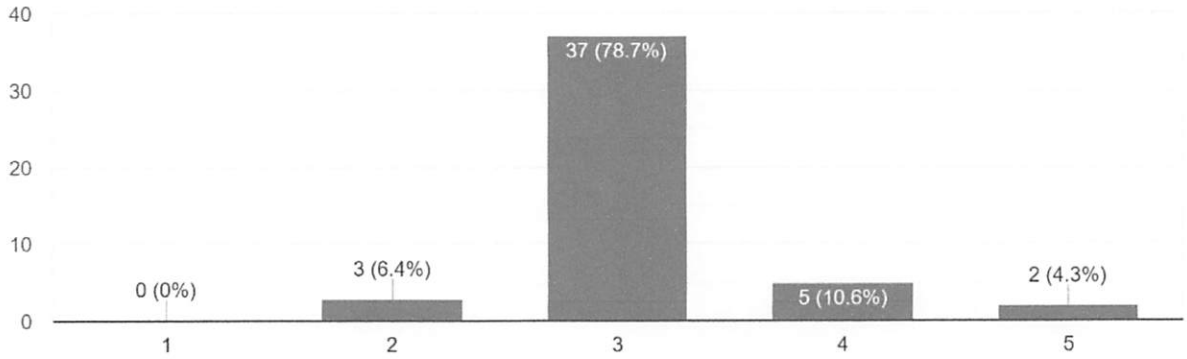
教員に熱意は感じられましたか

47 件の回答



講義の進行速度は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

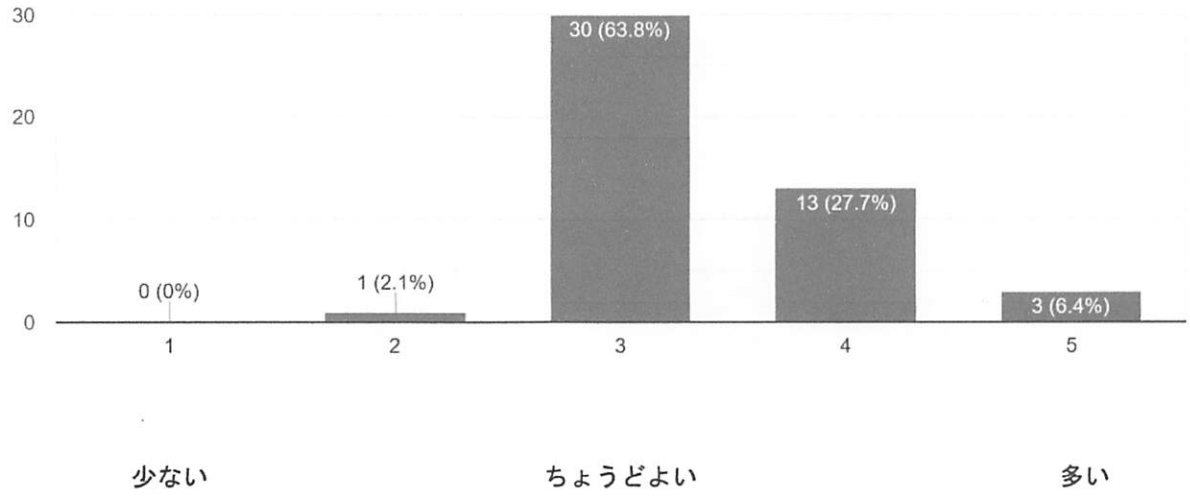
47 件の回答



遅い　　ちょうどよい　　速い

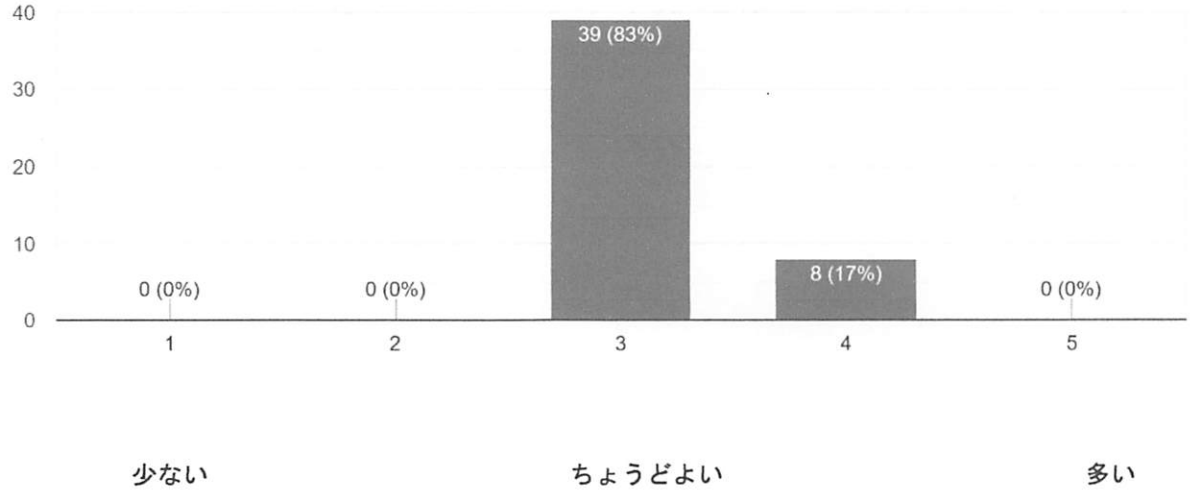
一回の講義内容の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

47 件の回答



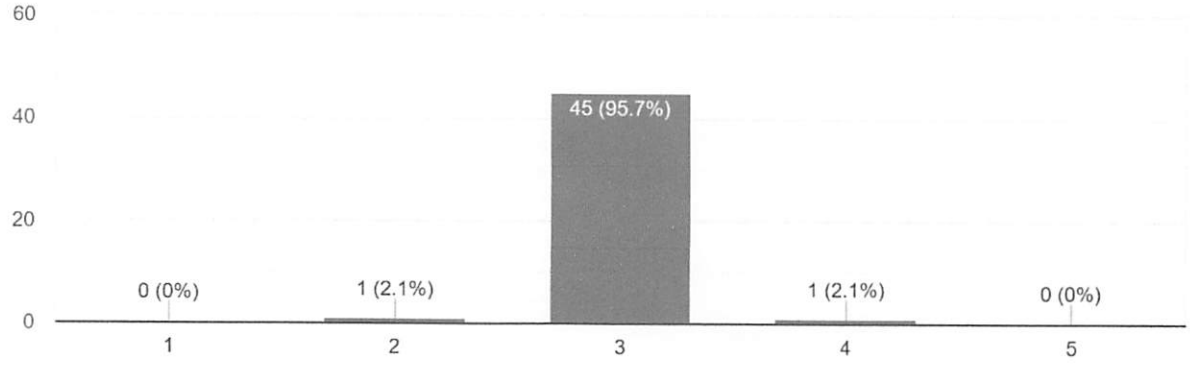
課題の量は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

47 件の回答



字の大きさは適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

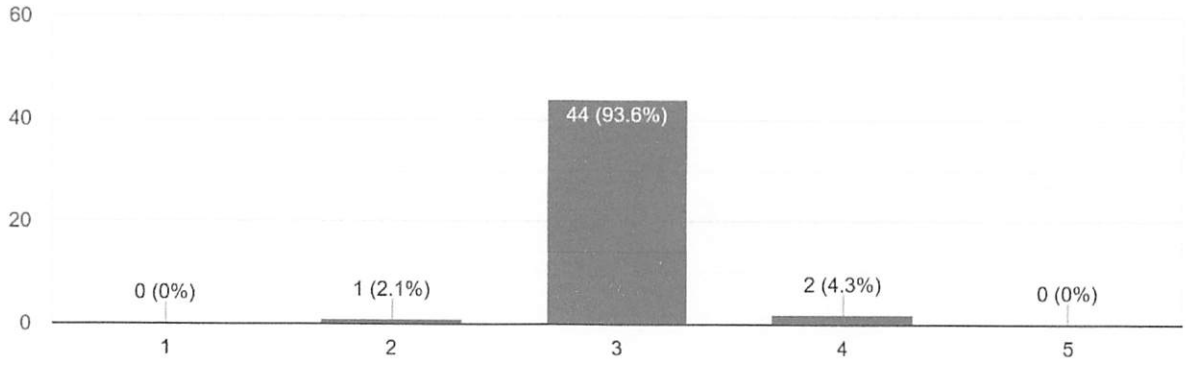
47 件の回答



小さい　　ちょうどよい　　大きい

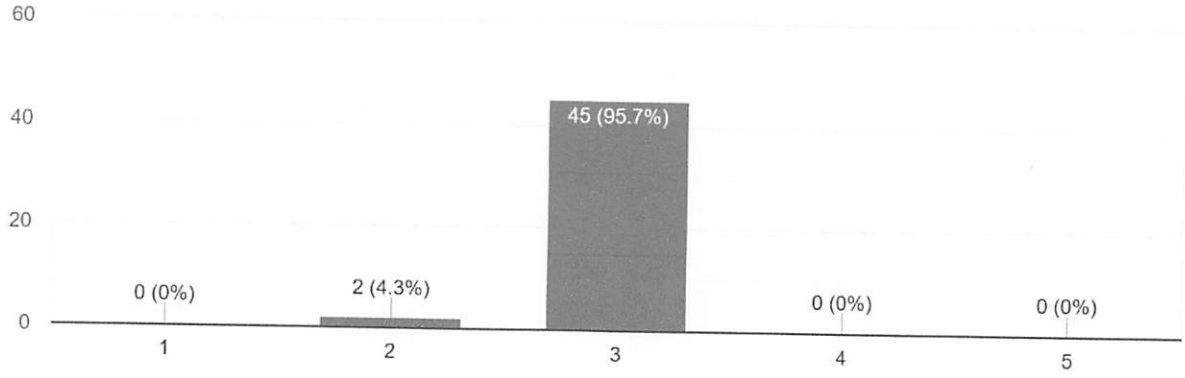
資料・板書の内容は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）

47 件の回答



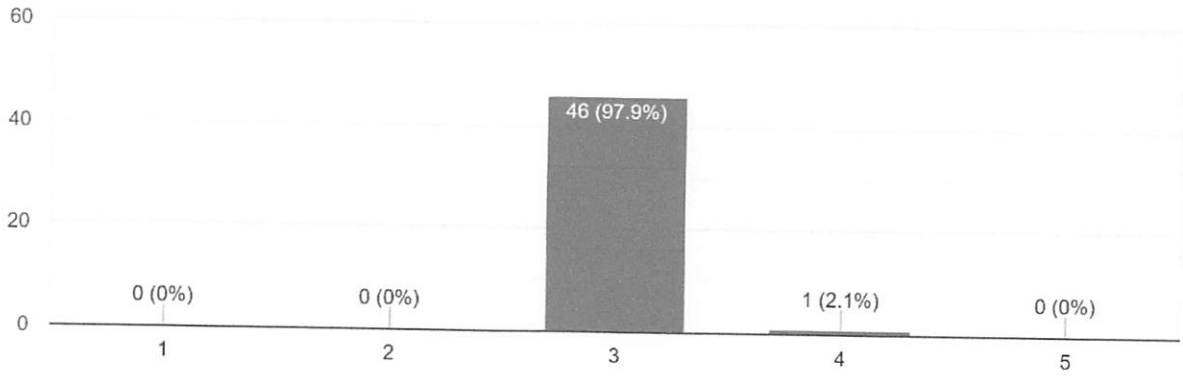
不足していた　　ちょうどよい　　詳しすぎた

図の大きさは適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）
47 件の回答



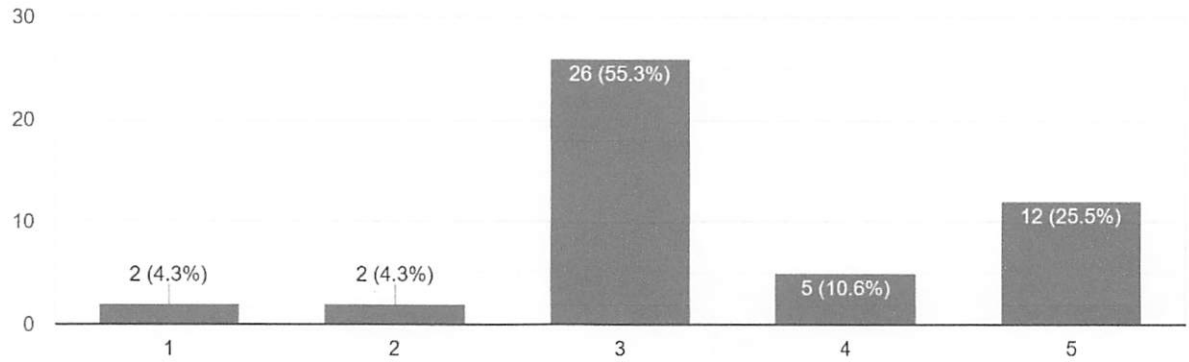
小さい　　ちょうどよい　　大きい

図の内容は適切でしたか （ちょうどよかった場合は3を選んでください）
47 件の回答



わかりにくい　　わかりやすい

講義はシラバスの記載通りに実施されましたか？（どちらともいえない場合は３を選んでください）
47 件の回答



されていなかった　　された

自由記述欄

・試験当日に病気になった際の対応が曖昧
・調剤の手技を実際にやりながら何度も教えていただけたので、特に注射の手技を身につけることができました。また、救急時の薬剤師の対応や服薬指導を実際に体験し、生徒同士や先生方にもフィードバックをいただけたことで、学習意欲が上がりました。
・初めてやることばかりで難しいところもありましたが、楽しく学べました。
・オスキーの内容で必要なことを学べたので良かったです。また、ガイドラインの検索の仕方、論文の読み方も学べて良かったです。救急から地域へつなぐ医療ではチームワークだけでなくロールプレイを行うことでコミュニケーションを学べたのがとても良かったです。
・実技の大部分は家で出来ないことなので、分からない箇所や難しい箇所のアドバイスを丁寧しして下さってとても有難かったです。実習お疲れ様でした、ありがとうございます。また後期も宜しくお願い致します。
・楽しかったです。
・臨床現場に出るための基本的なことを学べた
・試験当日に病気になった時の指示が曖昧だった
・後期は試験形式の練習をたくさんしてほしい
・調剤の練習が楽しかった
・先生方によって、教え方や試験の採点方式が違って困惑しました。軟膏の練習をもっとしたかったです。実習中、田中先生小野塚先生が特にフィードバックを頻繁にいただくことが多く生徒に向き合っていただいてとてもありがたかったです。的確な改善点を教えていただけるのでやる気の向上につながりました。
・一部水剤について、処方箋用量より 1/3 以下など不明なところがあった。

Enhancing Pharmacists' Role in Sexual and Reproductive Health: A Canada -Japan Comparison and Educational Initiative

Nese Yuksel[1], Shigeo Yamamura[2], Christine A. Hughes[1], Theresa J. Schindel[1], Tomoko Terajima[3]

1 Faculty of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, University of Alberta, Edmonton, Canada , 2 Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai International University, Togane, Japan, 3 Department of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Shonan University of Medical Sciences, Tokyo, Japan

INTRODUCTION

- Sexual and reproductive health (SRH) services encompass contraception, family planning, infertility services, maternal/perinatal health, sexually transmitted infections, and sexual health.
- Pharmacists are increasingly recognized as providers of SRH services as one of the most accessible healthcare providers globally.[1]
- In Japan, emergency contraception remains prescription-only, though more recently pharmacist provision of emergency contraception (EC) has been explored.[2]

AIM

To report on the delivery and evaluation of an educational program designed to support pharmacists in Japan to provide SRH services, focusing on EC.

METHODS

A pre and post evaluation survey was completed by the participants which included demographics, experience with contraception services, as well as attitudes and confidence with providing contraception services.

RESULTS

- Eighteen pharmacists attended the full-day workshop in Tokyo, Japan on March 9, 2025.
- 12 had **previously attended** a lecture on EC.
- More than half had over 10 years of **practice experience,** and few provide a wide range of SRH services (Fig 1).

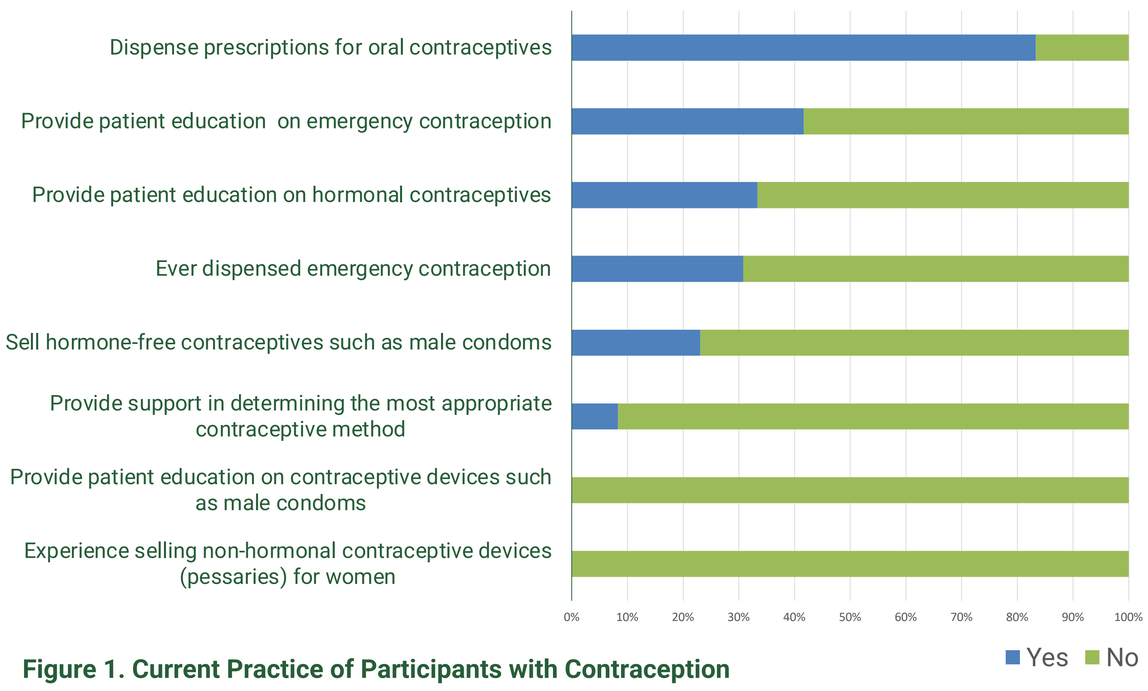


Figure 1. Current Practice of Participants with Contraception

RESULTS

- Participants expressed **satisfaction** with the workshop with appreciation for small group discussions using real patient cases.
- **Knowledge** increased slightly in overall use of levonorgestrel EC as an emergency contraception pill, patient assessment, and therapeutic decision-making.
- There was no difference in perceptions of pharmacist's **roles** with SRH services.
- Participants indicated a modest increase in **willingness** to provide contraceptive services, including EC.
- **Confidence** providing contraception services with EC improved after the workshop (Fig 2, Fig 3).

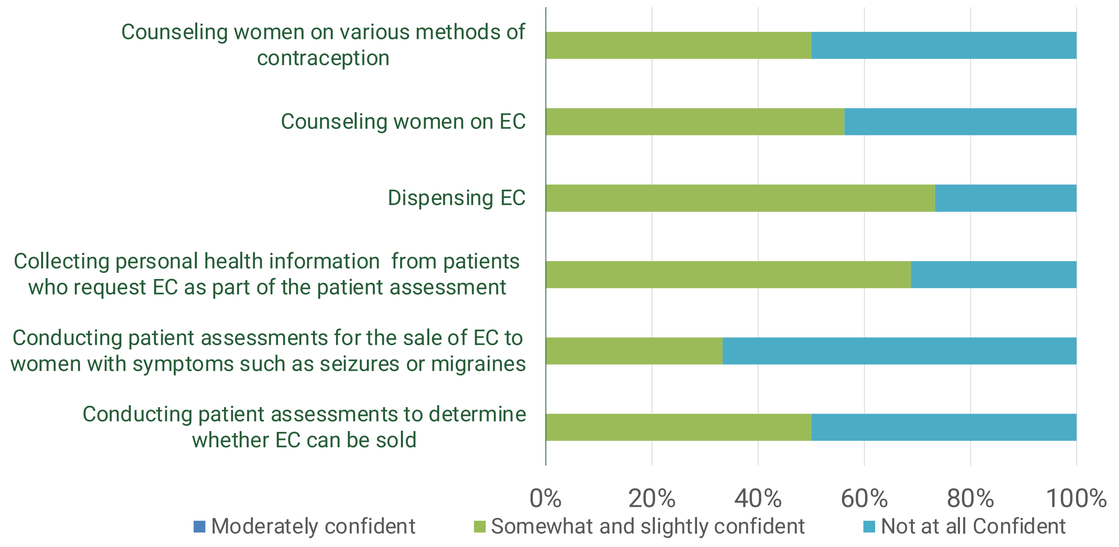


Figure 2. Confidence of Participants Pre-workshop

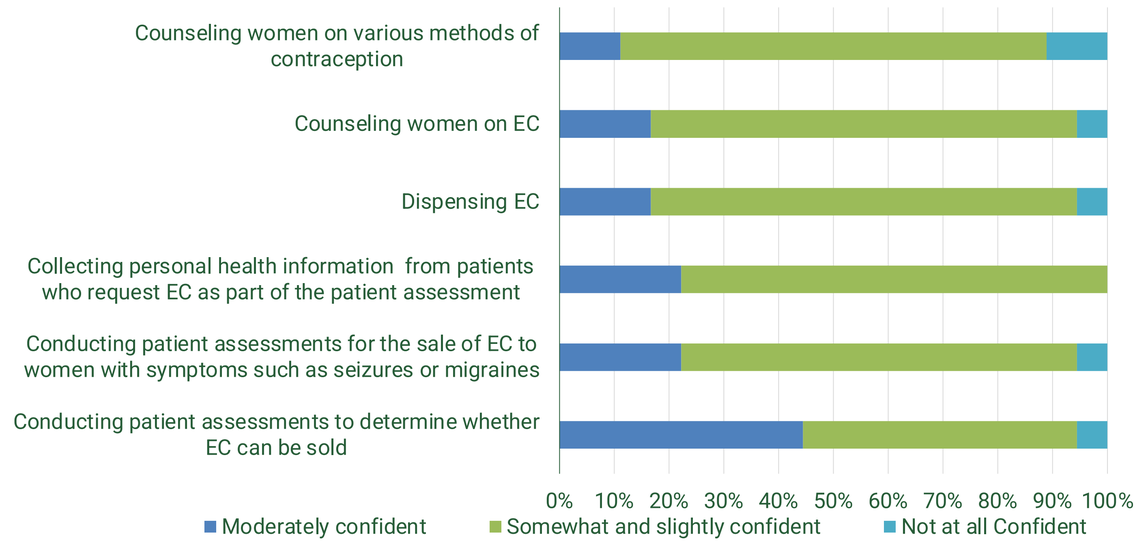


Figure 3. Confidence of Participants Post-workshop

CONCLUSION

- Targeted professional development programs can enhance pharmacists' confidence and readiness to provide SRH services.
- Perceptions of pharmacists' roles and willingness to provide contraception services showed little change, likely reflecting participants' prior engagement and interest in providing EC.

References

1. Navarrete J, Hughes CA, Yuksel N, Schindel TJ, Yamamura S, Terajima T, Sriboonruang T, Patikorn C, Anatachoti P. Community pharmacists' experiences and attitudes towards the provision of sexual and reproductive health services: An international survey. *Healthcare* 2023; 11(11):1530

2. Yamamura S, Terajima T, Navarrete J, Hughes CA, Yuksel N, Schindel TJ, Sriboonruang T, Anatachoti P, Patikorn C. Reproductive health services: Attitudes and practice by Japanese community pharmacists. *Healthcare* 2021; 9(10): 1336

Acknowledgements

The workshop was delivered in collaboration with Japan Association of Community Pharmacy. This work was supported by the Faculty of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, College of Health Sciences, University of Alberta (the Taiho Fund).

Contact

Dr. Nese Yuksel, email: yuksel@ualberta.ca

OTC 緊急避妊薬購入における消費者意識
～薬剤師への求めに関する質的研究～

○山崎　沙帆[1]、桐山　夏実希[1]、杉田　奈々葉[1]、竹平　理恵子[1]、
正村　優子[1]、中村　洋[2]、寺島　朝子[3]、有田　悦子[1]
1 北里大学薬学部、2 城西国際大学薬学部、3 湘南医療大学薬学部

【目的】令和５年より、一部の薬局で OTC の緊急避妊薬(ECP:Emergency contraceptive pills)の試験販売が開始された。OTC 販売における薬剤師側の懸念等についての報告はあるが、消費者側が薬剤師にどのような対応を期待しているかは十分に調査されていない。本研究では、消費者が OTC の ECP を購入する際に薬剤師に求めることを調査し、薬剤師の対応について検討した。

【方法】ECP を服用した経験がある女性（125 名）と、パートナーに ECP 服用経験がある男性（125 名）を対象に、無記名式の Web アンケートを実施した。薬局で OTC の ECP を購入する場面を想定し、“薬剤師に求めること”について自由記述で回答を得た。得られたデータは、性別ごとに SCAT（Steps for Coding and Theorization）で質的に分析した。

【結果】女性では、観点「購入者への配慮あるコミュニケーション」において、薬剤師の親身なコミュニケーションにより安心感を得ると、薬剤師を信頼できると認識することが示された。観点「不必要な詮索への拒否」において、ECP を服用することへの羞恥心から、必要以上の踏み込んだ会話に対する抵抗感が示された。観点「服用により予想される症状への不安の払拭」において、服用における安心感を得るため、緊急時の対応や援助に関する説明を求めることが示された。男性では、観点「パートナーの安全な服用サポート」において、パートナーに及ぼす影響への不安やパートナーをサポートしたい思いが示された。

【考察】女性との良好な信頼関係構築のために、薬剤師には親身な対応が求められることが明らかとなった。薬剤師は、ECP を服用する女性が持つ羞恥心を念頭に置き、会話への抵抗感を考慮した上で情報収集を行う必要性が示唆された。また、ECP 服用に関する不安は女性だけでなく、実際に服用しない男性にも存在することが明らかとなった。男性は、ECP により女性に生じる体調変化等への不安を抱えていることから、ECP 服用後に予想される症状や緊急時の対応等の情報提供は男性にも必要になると考えられた。以上より、薬剤師は、消費者に安心して ECP を使用してもらうために、消費者心理に着目し一人一人の求めに合わせた臨機応変な対応が重要だと考えられた。

28-52-pm1-04
The 146th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Osaka). March 26-29, 2026.

緊急避妊薬の使用に関連する性と生殖に関する教育に求められること
～小学校高学年から高校生を担当する教諭の意識調査～

Requirements for Sexual and Reproductive Health Education Related to the Use of Emergency Contraception :A Survey of Teachers' Perspectives from Upper Elementary to High School

○中村 洋 1、竹平 理恵子 2、寺島 朝子 3
○Hiroshi Nakamura1, Rieko Takehira2, Tomoko Terajima3

1. 城西国際大薬、2. 北里大薬、3. 湘南医療大薬
1. Fac. Pharm. Sci., Josai Int. Univ., 2. Kitasato Univ. Sch. Pharm., 3. Dept. Clin. Pharm., Shonan Univ. Med. Sci.

【目的】2025 年 8 月に緊急避妊薬（ECP）の薬局での販売が了承され、今まで以上に薬剤師の関与が求められることになった。これまで我々は一般消費者の ECP に対する意識調査を実施し、ECP の適正使用には性と生殖に関する健康と権利（SRHR）の概念普及が重要であることを明らかにした。しかし、一般消費者には SRHR が認知されている状況とは言えず、薬剤師が積極的に情報発信していく必要があると考えた。その一環として、小学校高学年～高等学校の児童・生徒に向けた ECP の使用に関連する性と生殖に関する教育について、児童・生徒を受け持つ教諭の考えを調査し、初等中等教育における性教育への薬剤師参画の可能性を検討した。【方法】国際セクシュアリティ教育ガイドライン キーアイデアから、包括的性教育で扱うことが望ましいと考えられる項目を抽出した。これらを基にして SRHR の基本や意思決定に関する質問 13 項目（SRHR 関連）と ECP 使用に関連する性周期や妊娠・避妊に関する質問 13 項目（ECP 関連）を作成した。小学校 4～6 年生、中学生、高校生を担当する教諭に WEB アンケートを実施し、ECP の使用に関連する性と生殖に関する教育の必要性と教育する際の負担感を調査した。【結果】教諭 322 人（小学校（男性 54、女性 56)、中学校（男性 52、女性 53)、高等学校（男性 53、女性 54)）から回答を得た。SRHR 関連は教諭の 82～93%が教えるべきと回答し、学校種別では中学校で高い傾向があった。教えるときの負担感は 38～58%で項目ごとにばらつきがあった。ECP 関連を教えるべきと回答したのは 63～85%であり、42%～50%の教諭が負担を感じていた。【考察】多くの教諭は、ECP 使用に関連する性と生殖に関する内容を学校教育で扱うべきと考えるが、実施には負担を感じていた。SRHR 関連よりも ECP 関連に負担を感じる傾向があることから、薬剤師が初等中等教育の性教育に参画する余地があると考えられた。今後、負担感などの要因を質的に解析し、具体的な参画方法を検討したい。